

まえがき

この度は灘校文化祭「weave」にご来場いただき、この「リードオフマン」を手にとってくださり、ありがとうございます。今年はドジャース来日の件もあり、より一層プロ野球も盛り上がっているところかと思います。

僕自身、記事が思っていたよりどれも長くて、サークルメンバーがみんな熱意をもって書いたのが伝わってきて嬉しかったです。記事は開幕前に書いたものなので変なこと言っても温かい目で見て欲しいです。

後、12球団の紹介の順番が何で去年の順位の順番なんだ DeNA が最初だろという意見は許してください。

どうか楽しんでお読みください！

灘校野球ファンサークル第8代目責任者 畝 健心

読売ジャイアンツ

78 回生 マッチーノ

2020 年以来、優勝はおろか、ここ二年は B クラスという伝統の球団として、あるまじき成績を残してしまった巨人。原監督の退任を受けて新監督に就任したのが阿部慎之助です。正直新監督の手腕に期待していた人は多くない(と感じる)し、筆者自身もそうでした。ところがどっこいふたを開けてみると歴史的な大混戦から抜け出して堂々の首位フィニッシュ。正直クライマックスの記憶はないので最高の一年だったと思います。()

1,昨季の総括

チーム成績

77 勝 59 敗 7 分(1 位)

打率.247(2 位)得点 462(3 位)安打 1172(2 位)本塁打 81(3 位)

盗塁 59(4 位)

防御率 2.49(1 位)失点 381(1 位)与四死球 396(2 位)故意四球 19(1 位)

守備率.990(1 位)失策 58(1 位)捕逸 11(6 位)

2,昨季の良かった点と改善点

・良かった点

圧倒的な守備成績が昨季のジャイアンツを支えた、の一言に尽きるでしょう。特に岡本、吉川、坂本、門脇の内野陣はシーズン始まる前から全員ゴールドングラブ賞をとれるのではないかと考えていました。守備的に若干もどかしいシーズンだった門脇以外はちゃんと獲ってくれましたね！またリリーフの整備は阿部監督の功績ですね。今年も投壊かと思っていたら大躍進でした。

・改善点

これといった問題はありませんでしたが一つ気になるのは捕逸が断トツで多い点です。捕手陣がんばれ！

3,入退団選手

・主な退団選手

菅野智之(→オリオールズ)

穴が大きすぎる。頑張ってください。

伊藤優輔(→ソフトバンク)

昨季の後半に出てきた選手です。甲斐選手(後ほど掲載)の人的補償ですね。頑張ってください。

畠世周(→阪神)

現役ドラフトで阪神へ。ぜひ復活してほしいですね。巨人戦以外で

・主な入団選手

甲斐拓也(←ソフトバンク)

ソフトバンクの戦力、かなり削れたんじゃないですか？

ライデル・マルティネス(←中日)

豊富なブルペン陣に通算 166 セーブの強力な助っ人参入。

田中将大(←楽天)

早く 200 勝達成してほしいですね。

田中瑛斗(←日本ハム)

現役ドラフトで加入。パリーグあんまり知らないけど頑張してほしいですね。

石川達也(←DeNA)

あんまり知らない選手だけどファームの成績は悪くないので期待。

トレイ・キャベッジ(←アストロズ)

未知数だけど最近の助っ人はあたりが多いので頑張してほしい。

4,今期の期待

- ・浅野翔吾の開花
- ・山崎伊織 12 勝
- ・戸郷最多勝
- ・大勢、ライデル・マルティネスの地獄継投
- ・今年こそ内野ゴールデングローブ賞巨人で独占
- ・井上温大 2 桁勝利

以上で読売ジャイアンツの記事とさせていただきます。やはり今年はリーグ連覇と日本一が目標ですね。ファン一丸となって応援しましょう。ありがとうございました。

阪神タイガース

81 回生 谷村 維吹

皆さんこんにちは。今回阪神タイガースについて書くことになりました、81 回生の谷村です。この記事、そして、この部誌を最後まで読んでいただくと嬉しいです。また、選手の敬称は略させていただきます。

1. 昨シーズンの振り返り

岡田監督が就任し二年目のシーズンでした。2023 シーズンはリーグ優勝、日本一に輝きましたが、首位巨人とのゲーム差 3.5 で惜しくも 2 位に終わってしまいました。

①チーム全体

チーム月間別成績

月	試合	勝利	敗北	引分	勝率	打率	本塁打	得点	失点	防御率	通算勝率	順位
3,4月	27	15	9	3	.635	.234	15	90	70	2.09	.625	1
5月	24	10	13	1	.435	.213	9	65	77	2.55	.532	3
6月	22	9	12	1	.429	.214	5	50	53	2.03	.500	4
7月	22	14	8	0	.636	.272	6	87	58	2.30	.533	3
8月	25	11	13	1	.458	.252	16	98	97	3.56	.518	3
9,10月	23	15	8	0	.652	.269	14	95	65	2.50	.540	2
合計	143	74	63	6	.540	.242	67	485	420	2.50	.540	2

シーズンオフの補強は新外国人のゲラと現役ドラフトでオリックスから来た漆原のみで、おおむね

2023 シーズンの優勝メンバーで戦うこととなりました。

開幕カードの巨人戦は、1 戦目、2 戦目とも完封負けでしたが、投手陣が踏ん張り、3・4 月を 15 勝 9 敗の 2 位で終わりました。5 月も打線の調子が上がりませんでした。交流戦前まで 25 勝 19 敗で貯金 6 を維持し、首位に立っていました。しかし、交流戦では打率.212（セリーグ最下位）、得点 38（1 試合平均 2.12）で得点力が不足し、7 勝 11 敗の 10 位。6 月終了時には貯金 0 の勝率 5 割で 4 位に転落しました。

7 月には 2 ヶ月連続で 2 割 1 分台だったチーム打率が一気に.272 に向上し、月間 14 勝 8 敗と好成績を上げました。7 月終わりには 8 連勝を記録し、首位広島とゲーム差 0.5 の 2 位につけました。（この時の広島、燃えてました）8 月に入るとそこまで踏ん張ってきた投手陣に疲れが見え、月間のチーム防御率は 3.56 と悪化し、11 勝 13 敗と負け越しました。

9月に入ってから、順調に勝ち星を積み上げ、広島、巨人がそれぞれ星を落とし、広島が大失速し、次第に巨人との一騎打ちとなりました。そしてゲーム差2で迎えた9月22,23日の甲子園での阪神

対巨人2連戦。シーズンの結果を左右するこの試合で、1戦目は勝ったものの、2戦目を1-0で落とし、巨人のマジックが4に減ってしまいました。その5日後に巨人の優勝が決まりました。

CSは良いところがありませんでした。1戦目は3回に内野ゴロの間に先制され、7回にはオースティンにタイムリーツーベースを打たれ3点を取られました。阪神は9回に木浪のタイムリーで1点を返し

一矢報いましたが、3-1で敗戦。2戦目は投手陣がセ界最強のベ이스ターズ打線につかまりました。2回には4連打を含む4失点。7回にはフォード、佐野の本塁打、戸柱のツーベースで一気に6点を失い、10-3で負け、昨シーズンのタイガースの戦いはここで終わりました。

②投手

昨シーズンのチーム防御率は2.50で、巨人と1/100点差の2位と、素晴らしい成績を残しました。近年の阪神の強さは投手陣のおかげです。主な投手陣について見ていきましょう。

投球回順。年俵は今季の数字で、単位は万円。

選手名	登板	勝利	敗戦	防御率	投球回	WHIP	被打率	奪三振	QS	年俵
才木浩人	25	13	3	1.83	167.2	1.06	.226	137	20	12000
村上頌樹	25	7	11	2.58	153.2	1.15	.247	130	15	8000
大竹耕太郎	24	11	7	2.80	144.2	1.15	.250	91	15	9000
西勇輝	21	6	7	2.24	124.2	1.09	.239	71	15	30000
ビーズリー	14	8	3	2.47	76.2	1.00	.196	75	9	24000
伊藤将司	18	4	5	4.26	74	1.43	.304	33	7	14000
青柳晃洋	12	2	3	3.69	61	1.43	.286	35	4	1000?
高橋遥人	5	4	1	1.52	29.2	0.81	.189	28	3	2500

才木、大竹あたりはタイトルを獲れなかったものの、エースとして言うことのない成績でした。ビーズリーも安定した投球を見せました。伊藤将司は被打率が高く、防御率の悪化を招いていました。今シーズンは持ち前の緩急で打者を抑えてほしいですね。

村上は防御率2.58と好成績でしたが勝ち星に恵まれず7勝11敗。残念です。また、高橋遥人が度重なるけがから復帰し、1025日ぶりの勝利を挙げました！遥人ファンだけにとってもうれしかったです。このオフにもプレート除去の手術を受けましたが順調に回復しています。

選手名	登板	勝利	敗戦	S	H	防御率	投球回	WHIP	被打率	奪三振	年俸
桐敷拓馬	70	3	1	0	40	1.79	65.1	1.01	.206	60	8800
岩崎優	60	4	4	23	17	2.20	57.1	1.10	.227	46	20000
ゲラ	59	1	4	14	31	1.55	58	1.00	.232	48	30000
石井大智	56	4	1	1	30	1.48	48.2	0.99	.200	58	82000
漆原太晟	38	1	4	0	5	3.89	34.2	1.59	.295	22	2500
岡留英貴	35	1	0	1	6	2.84	38	1.24	.247	24	2000
島本浩也	33	2	1	0	6	2.81	25.2	1.44	.281	10	4500
富田蓮	33	0	1	0	4	0.76	35.2	0.87	.200	22	2800

昨シーズンは桐敷、石井がセットアッパーに定着し、クローザーは岩崎、ゲラの二人体制でした。防御率が安定し、セ界一の中継ぎ陣でした。70試合に登板した桐敷は中日の松山とともに最優秀中継ぎに輝きました。クローザーだったゲラ、岩崎も一年間フル回転でチームに貢献してくれました。現役ドラフトで加入した漆原や3年目の岡留も登板機会が増えました。そんな中、2年目の富田が防御率 0.76 の素晴らしいピッチング。今シーズンは一軍で一年間投げてくれることを願います。

③打者

昨シーズンのチーム打率は.242 で優勝した 2023 シーズンから 5 厘低下し、リーグ 5 位でした。特に 5
、6月はダメダメでしたね。去年多く起用された打順で打撃成績を見ていきましょう。

スタメン野手

守備	名前	試合	打席	安打	打率	本打	打点	盗塁	四球	三振	OPS	年俸
(中)	近本光司	141	639	160	.285	6	45	19	68	93	.728	37000
(二)	中野拓夢	143	634	127	.232	1	32	6	46	97	.579	14500
(右)	森下翔太	129	526	126	.275	16	73	0	53	78	.804	7800
(一)	大山悠輔	130	545	125	.259	14	68	0	52	88	.721	34000
(三)	佐藤輝明	120	496	121	.268	16	70	0	36	133	.766	15000
(左)	前川右京	116	362	87	.269	4	42	0	27	50	.697	3200
(捕)	梅野隆太郎	95	318	56	.209	0	15	0	30	84	.532	16000
〃	坂本誠志郎	64	218	43	.223	0	12	0	12	38	.512	10000
(遊)	木浪聖也	116	409	77	.214	1	35	1	32	64	.550	6500

二番、四番の中野、大山あたりの打率が下がってしまったことが得点力の低下を招いてしまったのではないのでしょうか。捕手は先発投手によって梅野・坂本を使い分けました。前川などの若手の成績も向上しました。前川はオープン戦も絶好調なので今期は期待大です。

その他の野手

守備	名前	試合	打席	安打	打率	本打	打点	盗塁	四球	三振	OPS	年俵
(代打)	糸原健斗	89	128	24	.216	0	9	0	15	20	.547	7000
(代打)	原口文仁	52	65	14	.241	2	9	1	5	14	.685	4000
(左)	ノイジー	49	149	31	.231	1	8	1	14	16	.593	—
(遊)	小幡竜平	50	135	28	.241	1	9	2	12	27	.623	2500
(代走)	植田海	59	11	3	.273	0	3	4	0	3	.727	2100
(左)	島田海吏	62	94	22	.275	0	2	5	10	16	.663	3200
(三)	渡邊諒	67	137	32	.260	2	11	0	11	34	.671	4000

糸原、原口のスタメン出場数はそれぞれ 14 試合、5 試合で主に代打に甘んじていました。小幡は木浪の故障の時に多く試合に出ました。高寺や山田脩也との遊撃手争いがチームに良い影響をもたらしてくれることでしょうか。植田海は今シーズンも代走要員でしたが、盗塁数は 4 に留まりました。昨シーズンはチーム全体の盗塁数が少なかったですが、今シーズンはさらなる盗塁、好走塁が見たいです。

2. 今シーズンの展望

昨シーズンの振り返りが少し長くなってしまいましたが、手短に今シーズンの展望を書いていきたいと思います。

①昨シーズンと違い

今年、阪神タイガーズは監督が岡田監督から藤川監督に代わりました。この二人には様々な違いがあります。岡田監督は 2005 年に阪神をリーグ優勝に導くなど監督としての経験十分だったのに対し、今シーズンから指揮を執る藤川監督はコーチ経験がありません。（「高知」経験はありますけどね）岡田監督は選手に直接指導する機会が多かったですが、藤川監督は「一切、グラブもバットも持ちません」と明言し、指導はコーチに任せています。もちろん投手にはアドバイスを与えますが、基本的には見守る形です。

打順についても少し変更がありそうです。3 番佐藤輝明 4 番森下 5 番大山というクリーンナップの構想を練っていると藤川監督が明言しています。また、オープン戦やカブスとの

プレシーズンマッチでは佐藤が二番を打つこともあり、前川あたりが2番を打つことがあるかもしれません。

②新戦力

阪神は昨年10月のドラフト会議でNTT西日本の伊原陵人投手を一位指名しました。期待の若手に関しては後述します。

外国人選手はデュブランティエとネルソンの2人の投手を獲得しました。両投手ともメジャー経験があり、デュブランティエは先発ローテ入りが期待されます。ただでさえ激しいローテ争いがより熾烈になること間違いなしでしょう。アルナエス、コンスエグラの両選手は育成での契約です。

③期待の若手

今の阪神には中堅の主力、そして数年後の活躍が期待される若手がともに充実しています。ここで今シーズン活躍してくれそうな若手を紹介します。

1人目はドラ1の伊原陵人投手です。身長は170cmと小柄ですが、150km/h近くにもなるストレートとカーブ、スライダー、チェンジアップなどの多彩な変化球があります。変化球もすごいですが、直球だけで押していけることが彼の魅力で、カブスの今永のような投手です。

2人目は工藤泰成投手です。四国ILの徳島出身で、昨年10月のドラフト会議で育成1位指名を受けましたが、今年の3月にいきなり支配下登録されました。マッチョな体から投げ込まれるMAX159km/hのストレートに加え、腕を振れるスライダー、落差のあるフォークが持ち味の剛腕です。3月に行われたカブスとのプレシーズンマッチでは三番手として登板し、ランナーは出したものの3つのアウトをすべて三振で奪う好投。カイル・タッカーとの対戦では全球ストレートで空振り三振を奪いました。

3人目は高卒3年目で21歳の門別啓人投手です。最速150km/hのストレートとスライダー・フォーク・シンカーなどの変化球。そしてクロスファイアで右打者の内角を突く投球も彼の持ち味です。昨年の1軍の登板はわずか5試合でプロ未勝利ですが、カブスとのプレシーズンマッチでは先発登板し、いい当たりは打たれましたが、5回パーフェクトの圧巻の投球を見せました。オープン戦でも素晴らしい投球が見られ、今シーズンは先発ローテ入りが期待されます。

④優勝するためには

現在のセリーグには前年王者の巨人、日本一のDeNA、オープン戦好調のヤクルト、そして阪神と、どこが優勝してもおかしくありません。そんな中で阪神が優勝するためには何が必要なのかを最後にかきたいと思います。

1つ目は「中野の復調」です。昨シーズンは打率.232、OPS.579と打撃が低調で、打線の勢いを少し止めてしまっていたような気がします。最多安打を取ったことのある彼が復調すれば、打線も活発化し、チームにすごく良い影響を与えてくれるでしょう。

2つ目は「機動力の活用」です。昨年は近本がセリーグ盗塁王に輝きましたが盗塁数は19でした。チームの盗塁の合計はリーグ5位の41で、21年に盗塁王を取った中野も6でした。しかし今年はオープン戦などでも足を絡めた攻撃がみられるので、今年はさらなる得点力のアップが期待できます。

最後は「先発ローテ候補たちの競争」です。今の阪神には才木、大竹、村上という中軸、ベテランの西勇輝、左腕の高橋遥人や伊藤将司に加え新加入のデュプランティエ、伊原陵人という先発陣がとても充実しています。その中で互いに競争しあい、ローテに入れない選手が中継ぎに回り中継ぎの層がさらに厚くなり、、とセ界一の投手陣がさらにパワーアップしてくれると阪神のリーグ優勝、そして日本一はより近いものになるでしょう。

3. 終わりに

長い文章でしたが最後までお読みいただきありがとうございました。阪神タイガースがリーグ優勝、日本一を達成してくれることを心から願います。

横浜 DeNA ベイスターズ

81 回生 吉原旅

1. 昨年のお話

ベイファンの吉原です。昨年の三浦ベイスターズは日本一になりました。改めてベイファンの皆さん、おめでとうございます。特に 26 年待ち続けられた方の気持ちは計り知れません。オフシーズンが短かったですね。

さて、昨年のお話を軽くしますと、開幕ダッシュは良かったものの、その後ズルズルと順位を下げていき最終的に優勝争いに食い込めず 4 位で終わりかと思われましたが、何かが突然落ちてきたのでなんか 3 位でフィニッシュ。CS では阪神に難なく勝ち、巨人には辛勝してなんと日本シリーズへ。そしてホークスをなんとびっくり撃破して 26 年ぶりの日本一を果たしました。

シーズンでは打率、得点リーグトップと打撃陣は素晴らしい成績を残しました。また犠打が極端に少ないという特徴も見られました。僕は見てて楽しいです。その一方で失策数もリーグトップと守備面での弱さが露呈しました。名前を挙げるのは少々心苦しいですが、牧のファンブルや森敬の悪送球は見慣れてしまいました。今シーズンは期待です。

2. 補強や流出

ドラフトの注目は竹田、篠木、加藤。個人的には篠木が楽しみです。そして岩田、浜地、三森、バウアーを獲得しました。岩田がちょっとやれそうな予感。バウアーはリーグ優勝への巨大なピースです。

痛い流出としては石川達、フォード、ウェンデルケン、上茶谷、濱口など。石川達は巨人の開幕ローテらしいです。何してんねん。JB、フォードはメジャーでの活躍を祈ります。

3. 開幕メンバー予想

スタメン

1 番 ライト 梶原

昨季ブレイクを果たしました。今季は目標高く、フル出場&トリプルスリーに期待します。応援歌もできて、ノってきて欲しいです。

2 番 セカンド 牧

久しぶりに休養を得た今オフ。お粗末なエラーは気になるが今季もキャプテンとして 100 打点に期待します。

3 番 レフト 佐野

首位打者の頃から落ちてきてはいるがそれでも中軸は離しません。今季は復活の 3 割に期待。

4 番 ファースト オースティン

去年は首位打者を獲得しました。そんな彼の敵は怪我のみ。非常にハードルが高いが、今季も規定打席到達に挑みます。

5 番 サード 宮崎

みんな大好きブーさん。しかし衰えは来ます。今年完走できる保証はありません。そろそろ後釜が欲しい。。。とか言いながらもきっと 3 割打つでしょう。

6 番 センター 桑原

センターにクワがいるだけで安心感が全然違います。ただ、実際のところ外野のスタメンは当落線上。今季も華麗なダイビングキャッチに期待です。

7 番 キャッチャー 山本

ベストナインにも選ばれ、球界を代表するキャッチャーに成長。自慢の強肩と共に今季は 3 割 10 本に期待です。

8 番 ショート 森敬

CS・日本シリーズで頭角を現した、身体能力抜群でイケメンの華のあるショート。ただオープン戦を見ている限りでは少し不安。今季、遊撃手スタメン定着へ。

9 番 ピッチャー 東

ちょっと色々あったハマのエース。反骨心で 20 勝くらいしてほしいものです。新フォームをばつさりと捨てたのは好判断。

先発投手陣

東

開幕投手です。頑張ってください。実はバッティングが上手い。

バウアー

一年メキシコにいた後再び戻ってきたバウアー。沢村賞の筆頭です。

ジャクソン

昨年良い活躍をしたジャクソンはバウアーと共に 10 勝以上を目指します。

ケイ

直球はジャクソンと並んで一級品。キレやすいところを直せばもっと成績を伸ばせるはずです。

大貫

ここの辺りは流動的になると思います。一年完走はして欲しいです。

石田裕

ここはまだ分かりませんがオープン戦を見ている限り石田が濃厚かと。

中継ぎ投手陣

ウィック 直球、カーブともに良いですが開幕は少し出遅れかもしれません。

颯 大事な戦力になってきます。ワンポイント、さらに 7 回とかでも面白い。

山崎康 今年直球が良いという噂。何度も裏切られたが信じるしかない。

伊勢 先発の可能性も大いにあります。でも多分中継ぎ。

篠木 勝利の方程式抜擢もある逸材です。開幕 1 軍は間違いないでしょう。

森原 開幕厳しいか。戦力には必ずなってくれます。

岩田 オープン戦でも微妙な感じ。ワンポイントで輝けるか。

4.期待の選手

井上絢登

豪快なフルスイングが魅力。昨年、二軍では良い状態を保っています。いずれは中軸を担う選手となるでしょう。

松尾汐恩

打率が残せるキャッチャー。二軍では井上と並び無双状態に。松尾を獲得した後に山本の台頭があり、使い所に悩む選手です。個人的にはバウアー先発の時にマスクを被らせて成長を促すというのもアリかなと。一丁前の応援歌もできて準備は万全。

武田陸玖

二刀流をこなす宝石の卵。投手としては貴重なサウスポー、打者としては長打が望める、ベ이스ターズの希望。これからどうなるかは全く分からないがとても楽しみです。

庄司陽斗

今年育成から支配下登録された左腕。力強い投球が持ち味。まだまだじっくり育てるのがいいと思います。

広島東洋カープ

81 回生 道信大地

こんにちは！81 回生の道信です。小学生のころからカープファンです。この記事では、広島カープの昨シーズンの振り返りと、今季の展望を書きたいと思います。

I. 昨シーズンの振り返り

まず昨シーズンの振り返りです。書きたくねえ、辛い

i. 開幕～8 月

2 位で終わった 2023 シーズンからさらなる躍進が期待された 2024 シーズン。開幕投手は九里が務めました。開幕直後は、宇草や石原など若手が躍動。しかし、セ・リーグ最長タイ記録となる 4 試合連続完封負けを喫するなど波に乗れず、4 月は 4 位で終わりました。それでも、5 月は一変、投打が噛み合い、一気に 1 位に上り詰めました。栗林は 5 月だけで 9 つのセーブを記録し、末包も 4 本のアーチを固め打ち。大瀬良の通算 1000 奪三振、栗林の通算 100 セーブ（日本人最速タイで達成）などの嬉しい記録も誕生しました。僅差の試合をものにすることも多く、流れをつかんだ 5 月でした。6 月、交流戦中も流れは止まらず、1 位をキープ。特に、最強格の先発陣の強さを感じられた 1 か月だったように感じます。大瀬良のノーヒットノーラン、森下のマダックス（100 球未満で完封）も印象に残っています。僕含めファンは「優勝いけんじゃね？」とこの頃から思いはじめたはずですが、7 月から雲行きが怪しくなり始めます。得点力の乏しさが露呈し、投手力だけではどうにもできない試合が増えてきたのです。結局 7 月は 9 勝 10 敗と負け越し、2 位に転落します。一方、良い知らせも 1 つだけありました。7 月 24 日のオールスターゲームで坂倉が満塁ホームランを放ったのです。そこから坂倉の調子は右肩上がり。8 月、坂倉の 4 本のアーチなどの活躍もあり、再び首位に返り咲きます。栗林、ハーン、塹江らリリーフ陣も大車輪の活躍。ファンは皆優勝するその日のことを思い描いていたでしょう。9 月に悲劇が起これとも知らずに…

ii. 9月～シーズン終了

2位と0.5ゲーム差で迎えた9月の初戦は白星スタート。矢野のランニングホームランも記憶に残っています。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
巨人	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	9	1
広島	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	4	0

正直このまま優勝すると思いました。しかし、9月3日から6日にかけて4連敗。盤石の森下・大瀬良が打ち込まれてしまったのです。ここで巨人に首位の座を譲ってしまいます。7日に何とか連敗を食い止めたものの、その後まさかの6連敗。3位阪神にさえ追いつけられました。森下・大瀬良・床田の先発の柱が打たれたうえ、守護神の栗林さえも崩壊しました。9月11日の試合なんかは、見てられませんでした。巨人戦、2-0で迎えた9回表、もちろん守護神栗林登場。そのまま勝つんだろうなー、やっと連敗止まったか、と思いましたが、まさかまさかの大炎上。四球→四球→ヒット→死球→ヒット→四球。栗林は1つもアウトを取れずに降板しました。いつもは火消しをしてくれる森浦がその後登板しましたが、ノリノリの巨人打線からなかなかアウトを取れない。僕が消火器をもって火消ししようかと思った。結局9回だけで9失点。このあたりから優勝をあきらめて、Aクラスを確実に…と思うようになりました。15日何とか連敗を6で止めたものの、その後も4連敗。ついにDeNAに追いつかれ、「4位」の文字が現実になりました。21日は勝って3位にほんの一瞬返り咲きましたが、その後4連敗。今思えば投手陣はもうズタボロでした。勝てる気がしませんでした。雨天順延などの関係で日程がきつかったとはいえ、ここまで落ちぶれるのは見たことがありません。その後も同じような調子で、4位で2024シーズンは閉幕しました。ちなみに、9月に喫した月間20敗は、セ・リーグタイ記録ですし、8月終了時1位の球団がBクラスで終了したのは史上初です。

iii. まとめ

今まで見てきた中で1番レベルで辛かったシーズンでした。長打力不足・投手らの夏バテが大きな原因だったように感じます。しかし、これらさえ（さえ？）解消できれば、優勝する力も秘めているチームだと思います。今年に期待。あと、矢野・秋山GG賞おめでとう！

II. 今シーズンの展望

次に、主な選手の昨季の成績を分析し、今シーズンのカーブを展望します。

i.先発投手

選手名	投	試合数	勝利	敗戦	防御率	投球回	奪三振
床田寛樹	左	26	11	9	2.48	167.0	95
大瀬良大地	右	25	6	6	1.86	155.0	98
森下暢仁	右	23	10	10	2.55	151.2	98
アドゥワ誠	右	20	6	4	3.13	106.1	61
玉村昇悟	左	15	4	5	2.96	76.0	58
森翔平	左	5	1	3	2.70	26.2	17
常廣羽也斗	右	2	1	0	2.45	11.0	7

先発四本柱から九里が抜けましたが、依然強力な先発陣です。アドゥワ、玉村、森らはまだまだ伸びしろがあるし、常廣も将来が楽しみです。閉幕までバテずにしぶとく投げてくれるかが、今シーズンのカープの順位を大きく左右するでしょう。床田・森下のバッティングセンスにも注目。

ii.救援投手

選手名	投	試合数	勝利	敗戦	ホールド	セーブ	防御率
森浦大輔	左	53	2	0	17	0	2.51
黒原拓未	左	53	4	3	3	0	2.11
塹江敦哉	左	53	2	0	16	0	1.58
島内颯太郎	右	58	11	6	24	0	2.77
ハーン	左	35	0	1	17	2	1.29
栗林良史	右	60	0	6	12	38	1.96

矢崎が抜けてしまいましたが、それでもなお球団屈指のリリーフ陣です。何度助けられたか。文句なし。今年もよろしくお願いしますという感じですね。

iii.捕手

選手名	試合	安打	本塁打	打点	盗塁	打率	出塁率	長打率	OPS
坂倉将吾	121	119	12	44	3	.279	.328	.412	.740
會澤翼	57	28	0	13	0	.187	.233	.227	.459
石原貴規	56	28	3	11	0	.230	.284	.352	.636

坂倉は前半こそ不調だったものの、オールスターで満塁弾を放ってから覚醒。不調のチームを支え続けてくれました。今年も球界を代表する正捕手として活躍してもらいたいです。會澤は全盛期とは程遠い打撃成績となってしまいましたが、巧みなリードで強力な投手陣を盛り立てました。大瀬良のノーヒットノーランも會澤なしでは成し遂げられなかったでしょう。石原も強肩と勝負強いバッティングで存在感を発揮。今シーズンも期待です。

この記事を書いている途中に坂倉が右中指を骨折したというニュースが入ってきました。復帰まで少なくとも2か月程度かかるそうです。この穴は大きい…。磯村、清水、高木らの活躍も必須となってきました。

iv.内野手

選手名	試合	安打	本塁打	打点	盗塁	打率	出塁率	長打率	OPS
羽月隆太郎	53	5	0	1	12	.227	.261	.273	.534
上本崇司	62	27	0	7	0	.209	.255	.225	.480
田中広輔	66	15	2	7	1	.156	.231	.240	.471
矢野雅哉	137	112	2	38	13	.260	.322	.333	.655
小園海斗	143	151	2	61	13	.280	.322	.330	.651
堂林翔太	87	56	1	17	0	.230	.277	.295	.572
菊池涼介	136	109	9	38	2	.241	.281	.342	.623
二俣翔一	80	21	1	7	1	.196	.259	.262	.520

矢野・菊池をはじめとして、鉄壁の内野守備は見ていて気持ちよかったです。投手も相当助かったことでしょう。言うことはありません。しかし、打撃は少し(めっちゃ)気になります。長打は出ないし、単打すらもそこまで…といった状況。小園の積極的な打撃や、矢野の粘り強い打撃は成長も感じられて良かったのですが、ベテラン陣が苦戦したシーズンだったように思われます。菊池・堂林といった中堅や、上本・田中といったベテランが復活すれば、光が見えてくるのではないのでしょうか。

v.外野手

選手名	試合	安打	本塁打	打点	盗塁	打率	出塁率	長打率	OPS
秋山翔吾	138	158	4	30	6	.289	.328	.351	.679
野間峻祥	113	106	1	28	8	.271	.350	.340	.690
末包昇大	79	68	9	37	1	.238	.283	.381	.664
松山竜平	65	13	1	10	0	.178	.218	.274	.492
田村俊介	37	20	0	5	1	.198	.229	.267	.496
中村奨成	30	10	0	1	0	.145	.157	.174	.331

守備面では、秋山がGG賞を獲得。他の選手も目立った悪い守備はなく、心配は特には要らないでしょう。打撃面でも、秋山が打率.289を記録。野間も2割7分を打ち、末包も長打が打てる貴重な大砲です。切り札松山の復活・田村や奨成の成長が今季のカギとなりそうです。マジで頼む。

vi.新加入の選手・紹介しきれなかった若手

オフに長打力不足を解消するべく補強したのがモンテロとファビアンです。モンテロは主にファーストを守り、MLBでも上位のスウィングスピードが魅力です。反面かなりのブンブン丸で、日本の投手の変化球攻めへの対応が課題です。ファビアンは外野、主にレフトを守ります。パワーはモンテロに劣りますが、確実性で勝ります。オープン戦では脆い守備が散見されたので、そこは特訓してほしいですね。外国人では、ピッチャーのドミンゲスも獲得しました。常廣、森らとローテ争いをするのが予想されます。現役ドラフトでは、オリックスの内野手・山足と日本ハムのサブマリソン・鈴木を指名。現役ドラフトで2巡目の指名をしたのは史上初のことです。ポジション争い、一軍争いがさらに過激化しそうですね。

誌面の都合で紹介しきれませんが、有望な若手が多いのもカープの特徴です。互いを刺激しあって、立派な鯉に成長することを期待しています。

Ⅲ.まとめ

若手は成長した姿を見せられるか、ベテランはもう一花咲かせられるか、外国人は期待通りの活躍をするのか…など、不確定なことが多いシーズンです。しかし、これらがピタッとはまれば、投手陣は期待通りの活躍をしてくれるはずですから（七ろ十）、優勝もあり得ます。ハラハラドキドキですね。今年はマツダで現地観戦もしたいなあ。長々とした記事となってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。頑張れカープ!!

東京ヤクルトスワローズ

79 回生 小西 櫛世

去年の総評

2024 シーズンは高津臣吾監督の 5 期目で、57 勝 83 敗 3 分で最下位の中日とゲーム差なしの 5 位に沈んでしまった 2023 シーズンからの復活を目指したシーズンでした。

中日との開幕カードは 2 勝 1 分と好発進を切りましたが、次のカードで 3 連敗してしまい借金生活に突入、そのままシーズン終了まで借金を返済できず、62 勝 77 敗 4 分でまたも最下位中日とゲーム差なしの 5 位になってしまいました。2 年前まで連覇していた勢いはどこへ行ってしまったのでしょうか。

昨シーズンの敗因を挙げるとすれば先発不足とケガ人が続出したことです。打撃はよかったです。残念なところでは。

先発

主な先発投手	先発	防御率	勝	負	投球回	奪三振	WHIP
吉村 貢司郎	23	3.19	9	8	138.1	114	1.30
ミゲル・ヤフーレ	22	3.34	5	10	129.1	84	1.28
サイスニード	23	5.02	2	8	120.0	89	1.48
高橋 奎二	20	3.58	8	9	115.2	106	1.32
小川 泰弘	11	4.65	2	5	62	40	1.31
山野 太一	10	6.08	3	4	50.1	32	1.35

チームで 1 人も規定投球回到達者が出なかった中で最も多くのイニングを投げたのが吉村投手でした。2 年目の昨シーズンは大きな離脱もなく 1 年間ローテーションを守り、9 月 4 日の京セラドームでの巨人戦ではプロ初完封も記録しました（その試合見に行っていました）。さらにはオールスターにも出場するなど、飛躍の年となりました。

新加入だったヤフーレ投手はチーム 2 番目の 129.1 イニングを消化しました。防御率は 3.34(な阪関無)でした。勝ち星に恵まれず 5 勝 10 敗という成績でしたが、いいピッチングが多かったです(数試合に 1 回炎上するイメージがありました)。ゴロタイプの投手なので被打率は高いですが、いわゆる「マダックス」(100 球以内での完封)を達成するなど、球数の消費を抑えることができる投手です。

一方サイスニード投手は開幕投手に抜擢されましたが、その試合で勝利投手になることはできませんでした。そこからなかなか勝つことができず、初勝利は 6 月 8 日になってし

まいりました。結局、23 試合に先発したものの2勝8敗で防御率は5.05、被打率も3割を超えてしまい、これまでの3年と比べるとかなり残念な成績になってしまいました。

高橋投手は去年も好不調の波が激しく、去年は無失点が6試合あった一方、7失点が2試合、6失点も1試合ありました。前半戦はあまりよくありませんでしたが、後半になって調子を上げてきて、最終的にはチーム3位の8勝をマークしました。三振が多く取れる投手で、持っているものはいいのでもう少し安定感が欲しいところです。

小川投手は開幕に出遅れ、シーズン中もあまり状態が上がらず、彼らしくない投球がシーズンを通して続いていました。球数を抑えた投球ができるイメージがあるんですが、去年は5回までで90球くらいを使ってしまうことが多かったです。今年の復活に期待したいです。

山野投手は自己最多の10試合に先発し、3勝4敗で防御率は6.08でした。決していいとは言えない成績ですが、いいピッチングもありましたし、まだ5年目なので今年に期待したいです。

上の表に名前がない選手だと、ケガから復活して2年ぶりに登板した奥川恭伸投手が3勝、去年で23年目の大ベテラン、石川雅規投手が1勝、高梨裕稔投手も1勝しました。

先発投手の中で、サイスニード投手とヤフー投手は退団となってしまいました。ヤフー投手はいいピッチングをしていましたし、サイスニード投手も成績はともかくイニングは消化していたので、先発投手がまたさらに足りなくなるのではと思っていました。

しかし、オフの補強で前ロッキーズのピーター・ランバート投手、さらに前ガーディアンズのペドロ・アビラ投手の2人を先発候補として獲得しました。2人ともメジャーである程度実績があるので期待できると思います。さらにドラフト会議では愛知工業大学の最速160km/h右腕、中村優斗投手を1位・単独指名で獲得しました。吉村投手、高橋投手、奥川投手、小川投手、山野投手に加えてこの3人がしっかりローテーションを回れば、先発は機能すると思います。

主な救援投手	登板	防御率	勝	負	H	S	投球回	奪三振	WHIP
大西 広樹	60	1.34	9	1	23	1	60.1	31	1.03
木澤 尚文	55	3.06	3	3	15	5	53	46	1.23
山本 大貴	44	1.42	3	0	12	1	31.2	31	0.95
田口 麗斗	41	2.94	1	4	13	7	33.2	22	1.28
小澤 怜史	40	2.55	6	6	2	11	77.2	66	1.09
石山 泰稚	37	4.35	1	0	8	4	41.1	39	1.50
星 知弥	36	3.62	1	0	2	1	37.1	33	1.42
エルビン・ロドリゲス	32	1.80	1	1	8	1	45	44	1.09

救援

去年の救援陣は勝利の方程式をなかなか固定できませんでした。そんな中、チーム最多の 60 登板とフル回転の活躍を見せたのが大西投手です。オールスターにも選出され、1 年間を通じて安定感抜群の投球でした。ちなみに大西投手は救援登板のみにもかかわらずチーム最多タイの 9 勝を挙げています。

木澤投手はプロ入りから 3 年連続で 55 登板以上と、ヤクルトのブルペンを支えてきた投手です。シーズン途中には一時クローザーの役割も任されました。木澤投手と言えば平均球速が 150km/h を超える高速シュートのイメージが強いですが、打者がスイングしたうちの半分以上が空振りする異次元のカットボールを持っています。

山本投手はロッテからトレードで移籍してきて 3 年目のシーズン、ヤクルトで貴重な中継ぎの左投手として途中からは勝ちパターンになり、最終的に 43 試合に登板し防御率 1.42、3 勝 0 敗、12 ホールド 1 セーブと素晴らしい成績を残しました。なんと去年許した長打は 0 本 (!) でした。球の出どころがづらいフォームが特徴です。

田口投手はおとしクローザーを務めて 33 セーブを記録し、去年もクローザーとして安定感のある投球が期待されていました。しかし、キャンプ中に下半身のコンディション不良を発症し、何とか開幕には間に合わせたものの調子が上がらず、1 試合登板して離脱しました。5 月下旬ごろに 1 軍に復帰してしばらくはクローザーを務めたものの、6 月終わりごろから 7 月にかけて打ち込まれることが増え、クローザーの座からも陥落してしまいました。

小澤投手はシーズン序盤、先発でした。投球内容は悪くありませんでしたが、なかなか勝ちがつかずロングリリーフに配置転換されると好投を続け、クローザーが決まらないチーム事情もあり 8 月にクローザーにまた配置転換されました。サイドスローから高い空振り率のストレートを軸に 8 月からの 2 か月で 11 セーブを記録しました。

石山投手は一時期クローザーを務めたもののなかなか安定しませんでした。星投手もなかなか安定した成績ではなかったなのでこの 2 人は今年の復活に期待したいです。

ロドリゲス投手は 4 月に 1 度先発登板して以来登板機会がありませんでしたが、7 月末に中継ぎとして復帰すると好投を続けて終盤にはセットアッパーとして活躍しました。

ロドリゲス投手と、名前は挙がりませんがホセ・エスパーダ投手と今野龍太投手が救援陣からは退団となっています。ロドリゲス投手は後半戦かなりいいピッチングをしていたので退団は残念に思いました。また、ほぼ一軍で見なかったので先発か救援かわかりませんが柴田大地投手が退団しています。

一方、新加入の選手として前マーリンズのマイク・バウマン投手、現役ドラフトで広島

から矢崎拓也投手、ドラフト会議でセガサミーの荘司宏太投手を獲得しました。バウマン投手は去年大谷翔平選手が50-50を達成した、50号のホームランを打たれたことでも有名になった選手です。~~(このネタずっとこすられそう)~~セットアッパーまたはクローザーとして期待されています。矢崎投手は2023年には不調の栗林良吏投手に代わって広島でクローザーを務めたこともある実績十分の投手です。荘司投手は元巨人・岡島秀樹投手のように投げる際にキャッチャーの方向を見ない、ダイナミックなフォームが特徴の左投手です。

今年は小澤投手、田口投手あたりがクローザーを1年間務め、それに加えてバウマン投手、大西投手、木澤投手、山本投手あたりでの勝ちパターンが組めればいいと思います。また清水昇投手の復活にも期待したいです

捕手・内野手

主な選手	打席	打率	安打	本塁打	打点	OPS
中村 悠平	353	.237	69	0	23	.583
松本 直樹	142	.269	36	1	11	.631
ホセ・オスナ	585	.267	144	17	72	.733
山田 哲人	385	.226	77	14	39	.704
武岡 龍世	147	.177	27	3	9	.511
村上 宗隆	611	.242	121	33	86	.847
長岡 秀樹	610	.288	163	6	58	.692

(太字はタイトル)

捕手は主に中村選手と松本選手の併用でした。中村選手はリード面での貢献が大きいですが、打撃面がホームラン0などと物足りない印象になってしまいました。2連覇のころはもう少し率も残せてホームランも打っていたんですが…。一方、バントのうまさは健在でした。松本捕手はこれまで出場機会になかなか恵まれませんでした。去年は内山選手と古賀選手がケガしたこともあって出場機会を得ると、2割7分近い打率を残しました。

一塁手はほぼオスナ選手でした。来日4年目でチームに欠かせない存在となり、打撃ではリーグ6位の17本のホームランで打率も2割7分近く、また三振も91とそこまで多くありません。守備でも村上選手のショートバウンド送球をよく止めるなど守備も一定の活躍が見られます。また、相手のスキを突いたタッチアップなど、足は速くないものの走塁意識も高く、全体的に手を抜くことのない素晴らしい選手です。去年のシーズン中にサンタナ選手とともに3年の契約延長が発表されたので、ファンとしてはとても安心しています。

二塁手は主に山田選手、山田選手の離脱時などに武岡選手が出場していました。山田選

手は近年成績がかなり下降気味で、「ミスタートリプルスリー」と呼ばれる選手だけに残念です。打率は2割2分台で3割には遠く、盗塁に至っては1つしか決められていません。復活に期待しましょう。その一方ホームランは14本打ち、全盛期と比べると減りましたがリーグ10位、さらに11年連続の2桁ホームランです。武岡選手は打率があまり残せていないですが、今後に期待したいです。本塁打を3本打ったのは少し意外でした。

三塁手は村上選手が全試合出場しました。3年前の三冠王と比べるとかなり成績を落としてしまいました。打点王と本塁打王は獲得したのに不調と言われてしまうのも強打者だからこそです。一方の打率はかなりひどい状態になってしまっていて、三振も180とかなり多いです。今年が日本で最後のシーズンと公言していますので、今年は3年前のような成績に期待しましょう。意外と足も速くチームトップタイの10盗塁を決めています。守備はエラーがかなり多いのは変わっておらず、そこもメジャー挑戦に向けて課題のひとつです。

遊撃手は長岡選手が全試合出場し、なんと最多安打のタイトルを獲得しました。2022年に一軍に定着し、ゴールデングラブ賞を獲得した一方、打撃はおとし打率が2割2分台と「守備の人」のイメージでしたが、打撃面でもブレイクしました。守備では広島の矢野選手にゴールデングラブ賞を阻まれましたが、広い守備範囲でヒット性の当たりをいくつもアウトにしています。

オフにはFAで楽天から茂木栄五郎選手を獲得し、人的補償で小森航太郎選手が退団しました、茂木選手はユーティリティープレイヤーで様々なポジションを守ることができます。来年には村上選手がメジャー移籍を控えているので、いい選手を獲得したと思います。小森選手は俊足が持ち味の若手内野手です。盗塁王も狙えると思って期待していたので退団は残念ですが、楽天でも頑張ってもらいたいです。

内野のスタメンはあまり去年と変わらないと思います。村上選手は日本最終年なので、三冠王を獲った2022年のような成績を残して有終の美を飾り、いい契約を勝ち取って海を渡ってほしいです。

外野手

主な選手	打席	打率	安打	本塁打	打点	OPS
ドミンゴ・サンタナ	484	.315	132	17	70	.905
西川 遥輝	363	.260	80	1	24	.675
丸山 和郁	296	.241	61	0	12	.589
宮本 丈	164	.259	38	0	6	.591
岩田 幸宏	140	.228	28	1	7	.543
青木 宣親	129	.229	27	0	9	.588
塩見 泰隆	113	.267	27	3	8	.722
増田 珠	102	.207	13	2	6	.570

サンタナ選手はレフトでの起用が多かったです。首位打者のタイトル争いは DeNA のオースティン選手に .001 差で負けてしまいましたが、それでも 3 割を超える高い打率を残しました。ホームランもオスナ選手と同じ 17 本でリーグ 6 位と文句なしの成績でした。守備が苦手で試合終盤に守備固めを出されることが多いのでレギュラーとしては試合数に比べて打席数が少ないです。

西川選手は楽天から移籍して 1 年目、113 試合に出場しました。打率は .260、ホームランは 1 本でもう少し打ってほしい感じはあります。盗塁も全盛期ほどではありませんが、チームトップの 10 盗塁を決めています。

丸山選手は、打撃のほうはいマイチでしたが、俊足で広い守備範囲を持ち、守備面での貢献が大きい選手です。2022 年には優勝決定サヨナラヒットを放った選手なので今年は打撃にも期待したいです。

宮本選手は内野手登録ですが外野手での出場が多かったのでこちらに書きます。去年は一時期ものすごく打っていたイメージがありましたが、シーズンの成績を見ると 2 割 6 分弱と、レギュラーには少し物足りない成績でした。これには代打打率が 0 割だったことが響いているような気がします。

岩田選手は去年の開幕後すぐに育成から支配下登録され、7 月ごろに一軍に定着すると、8 月にはプロ初ホームランを放ちました。俊足でチームトップタイの 10 盗塁を決め、またその俊足を生かした外野守備にも定評があります。

青木選手は去年、代打メインで時々スタメン起用でしたが、打率 .229 と低迷し、昨年限りで現役引退となってしまいました。引退試合ではセンター、レフト、ライトの全ポジションを守り、青木選手らしく流し方向と引っ張り方向に打ち分けて 2 安打を記録し、日米通算の安打数を 2730 本としてユニフォームを脱ぎました。日米通算 2730 安打のほかにも、NPB 唯一の 2 回のシーズン 200 安打、最多安打 2 回、首位打者 3 回、盗塁王も 1 回など数々の記録を残した名選手でした。

塩見選手は、開幕から1番センターで出場していましたが、4月27日にホームランを打った際に腰を痛め、翌日から代打としての出場になってしまいました。それでも5月3日にはサヨナラホームランを打つなど代打メインでも活躍していました。しかし、5月11日の初回到内野安打を打ち一塁を駆け抜けたときに転倒し、左ひざの前十字靱帯損傷と半月板損傷の大ケガをしてしまいそのままシーズン終了となってしまいました。出たら活躍する選手なので今年こそはシーズン通して出場してほしいです。

増田選手はソフトバンクから移籍して1年目、7月に一軍に定着すると、8月13日にはここまでホームランを一本も打たれていなかった中日の絶対的クローザー・R.マルティネス投手からホームランを放つなど、2本のホームランを打つ活躍を見せました。あとはもうすこし打率を残せば、スタメンも見えてくると思います。

主な退団選手については、青木宣親選手と山崎晃大朗選手が引退してしまいました。一方、ドラフト会議では豊川高校の強打者、モイセエフ・ニキータ選手を獲得しました。高卒なのでしばらくは2軍で育成すると思いますが、将来的には中軸を打ってほしいバッターです。

今年は塩見選手が復帰するはずなので、ケガのないように1年間活躍してほしいです。塩見選手とサンタナ選手がセンターとレフトのスタメンを張ると予想されるので、ライトがサバイバルポジションになりそうです。誰がスタメンを勝ち取るのか、注目です。

さいごに

長い文章でしたが最後まで読んでいただきありがとうございました。

ヤクルトが優勝、そして日本一になれるように今年も応援します！

中日ドラゴンズ

80 佐々木勇人

球界の歴史の中ではあまりいい監督とはいえないであろう立浪監督が辞任し、井上新監督のもとシーズンがスタートした 2025 年度の中日ですが、オープン戦はこれを書いている 3/16 日時点では 5 勝 4 敗と勝ち越していてまずまずの結果となっています。今年こそ貧打貧打といわれ続けた打線が復活することはあるのでしょうか。

1,新戦力

まず、新戦力組について私が期待している三人を紹介していきます。

- ・伊藤茉央(楽天より現役ドラフトで加入)
制球難こそありますが鋭い変化球を武器としたサイドスローです。
昨年成績 登板 6 防御率 7.94 勝利 0 投球回 5.2
- ・ボスラー(新外国人)
マイナー通算 162 発のスラッガー。去年はマイナーで 119 試合 3 割 30 本を達成。
今の中日に足りない長距離砲です。(3/16 時点で怪我しています。)
- ・マラー(新外国人)
身長 201cm と高身長で 2023 年にはアスレックスで開幕投手を務めたこともある
選手で、4 年間でメジャー54 登板を果たした実力派左腕です。

参考までに今年退団した主な選手です

- 福谷浩司(FA で日本ハムへ)
- 石垣雅海(現役ドラフトでロッテへ)
- R.マルティネス(自由契約で巨人へ)
- 小笠原慎之介(ボスティングでナショナルズへ)

R.マルティネスという絶対的守護神がぬけてこの後どうなることかと思いましたがまあ意外と何とかかなりそうですね(?)

2,シーズン見解

昨年度はヤクルトに勝率二厘差で負け、一位と 16.5 ゲーム差で最下位となった中日ですが、今年はいったいどうなることでしょう。

一,打線

去年の貧打線と比べて今年はオープン戦とはいえ一試合 3 点以上取った試合が 75%を占めていて、去年の一試合平均得点数 2.6(全球団の中でぶっちぎりの最下位)と比べると少し良くなっているといえるでしょう。

田中幹也が怪我している中、村松や岡林などがオープン戦 3 割を記録する絶好調で、そ

れらを石川、細川、ボスラーなど返せる選手が複数人いるという、チームとしていい状態だと思います。移籍二年目となる上林は両リーグ最多タイとなる3本塁打を放っており、今年の中日の外野争いは熾烈になると思われます。

二、投手

今までの弱小球団中日ドラゴンズの唯一の強みと言っていい投手陣ですが、今年は R.マルティネスや小笠原の退団により層自体は薄くなったと考えられます。とはいえ、ドラフト一位の金丸や新外国人マラーなどの新戦力も強力で、ものすごい弱体化というわけではないと思います。

主な投手陣(右は昨年成績)

先発

高橋宏斗 開幕投手内定 防御率 1.38 12 勝 4 敗

柳裕也 防御率 3.76 4 勝 5 敗

松葉貴大 防御率 3.09 5 勝 6 敗

リリーバー

藤嶋健人 防御率 2.20 50 登板 17HP

松山晋也 防御率 1.33 59 登板 43HP

清水達也 防御率 1.40 60 登板 39HP

両方三人ずつの紹介になりましたが、これ以外にもまだまだ有望な若手もいます。

中日の唯一の強みといえる「若手の層の厚さ」は他球団と比べても素晴らしいです。

昨シーズンも最下位に沈んだものの怪我人の復帰と若手の台頭があれば A クラスも全然可能なのではないかと思っています。

最後に

ここまでの文章とてもかたくなってしまいましたが読んでいただいてありがとうございます。私自身は中日ファンでもなんでもないので正直中日が今後 3 年優勝することは正直ないと思っていますし、若手が成長して主戦力級になるころには高橋宏斗がメジャーに行ったり石川昂弥が FA したりと散々なことになっていると思います。A クラス入りは全然あり得る戦力がそろっている(じゃあなんで勝たれへんねん!)のですが、当分は 2024 年度優勝の巨人、カブスにもドジャースにも勝っちゃった阪神などとてもなく大きい壁があるのでなかなか…

中日ファンの方はぜひ長い目で見守ってあげてください。

ちなみに、私は阪神ファンです。カブスとドジャースに勝ってめっちゃ浮かれています。中日は正直眼中にないです。こんな私が来年中日に泣かされないこと、そして中日の若手がたくさん台頭してくること、FA で阪神に来ることを期待しています。

あと、野球部はってください。

福岡ソフトバンクホークス

げっしもく

こんにちは、81 回生の山根です！今回はソフトバンクホークスの記事を書かせていただけることになりました。最後まで読んでもらえると嬉しいです！

1.チーム総括

チーム成績 91 勝 49 敗 3 分 勝率.650 607 得点 390 失点 得失点差+217 優勝

小久保裕紀監督の就任 1 年目となった昨季は、4 月 4 日に首位に躍り出ると、勝率 6 割を常にキープし続ける圧倒的な強さで、7 月 30 日にはマジック 42 が異例の速さで点灯した。柳田悠岐のケガによる離脱や守護神オスナの不調などがあったが、正木智也、杉山一樹など若手の活躍によってそれをカバーし、4 月から一度も首位を明け渡すことなく、2 位に圧倒的な差をつけて 9 月 22 日に優勝を決めた。プレーオフでは、CS は 3 連勝で勝ち上がるも、DENA との日本シリーズでは 2 勝 0 敗からのまさかの 4 連敗で敗れ、日本一を逃した。

2.選手成績

先発投手

選手名	防御率	勝	負	投球回	奪三振
有原 航平	2.36	14(1)	7	182.2(1)	137
モイネロ	1.88(1)	11(3)	5	163.0	155
大関 友久	2.50	8	4	122.1	77
スチュワート Jr	1.95	9	4	120.0	105
大津 亮介	2.87	7	7	119.1	97

先発防御率 2.50(12 球団 1 位)

*カッコ内数字はリーグ順位(トップ 3 を記載)

〈獲得タイトル〉有原航平：B9、最多勝 モイネロ：最優秀防御率、GG

ここ数年、先発陣はチームの課題だったが、昨年は防御率 12 球団中 1 位へと躍進した。昨年から先発転向したモイネロが 163 回を投げて防御率 1.88 と大活躍し、最優秀防御率のタイトルを獲得。スチュワート Jr も 20 試合で 9 勝 4 敗、防御率 1.95 と覚醒を遂げた。ホークス移籍 2 年目の有原航平も安定した投球で最多勝のタイトルを獲得し、優勝の原動力となった。

中継ぎ投手

選手名	防御率	勝	負	HP	S
松本 裕樹	2.89	2	2	25	14
オスナ	3.76	0	3	5	24
ヘルナンデス	2.25	3	3	24	3
藤井 皓哉	1.80	2	1	21	1
津森 宥紀	2.13	5	2	22	0
杉山 一樹	1.61	4	0	18	1

中継ぎ防御率 2.58(パ・リーグ 1 位)

もともと強力だったリリーフ陣が今年も威力を発揮。昨季圧倒的な成績を残したこれロベルト・オスナが不調で 2 軍に降格するも、代役の松本裕樹が 14 セーブを挙げる活躍でブルペンを支えた。また、来日 2 年目のダーウィン・ヘルナンデスはシーズン初登板から 27 イニング連続奪三振の日本記録を樹立するなど、持ち前の奪三振能力で勝ちパターンの一角を担い、21 ホールドを挙げた。また 9 月 23 日のオリックス戦では 9 回裏を 3 者連続三振で締め、胴上げ投手にもなった。

捕手

選手名	打率	本塁打	打点	OPS	盗塁阻止率
甲斐 拓也	.256	5	43	.690	.284
海野 隆司	.173	2	10	.504	.316

〈獲得タイトル〉 甲斐拓也：GG

甲斐拓也が扇の要として投手陣を支えた。盗塁阻止率こそ例年より低かったが、リーグ随一のリード力とブロック能力は健在で、7 度目の GG 賞を獲得した。第二捕手の海野も守備でチームを支えた。

内野手

守備位置	選手名	打率	本塁打	打点	盗塁	OPS
一	山川 穂高	.247	34(1)	99(1)	0	.801(3)
一	中村 晃	.221	0	16	0	.540
二	牧原 大成	.283	2	13	6	.679
二	廣瀬 隆太	.233	2	9	0	.609
二遊	川瀬 晃	.261	0	7	2	.599
遊	今宮 健太	.262	6	39	1	.704
三	栗原 陵矢	.273	20	87(3)	2	.807(2)

〈獲得タイトル〉

*カッコ内数字はリーグ順位

山川穂高：B9、GG、本塁打王、打点王 栗原陵矢：B9、GG 今宮健太：B9

昨季オフに西武から移籍した山川穂高が2冠王と大活躍。日の試合では史上2人目となる2打席連続満塁ホームランを達成した。また、2023年シーズンにサードへコンバートした栗原陵矢もリーグ2位の87打点、リーグトップの2塁打40本など、ポイントゲッターとしての役割を存分に発揮した。その一方で、代打職人の中村晃、内野を広く守れるユーティリティープレイヤーの川瀬晃など、控えの層も厚く、リーグ優勝に大きく貢献した。~~ちなみに僕はこの栗原が大好きです。本当に本当に好きです。まずとにかくカッコいい。それからグラブさばきも素敵だしバットイングも上手いしあとアイブラックもいいよね~~

外野手

守備位置	選手名	打率	本塁打	打点	盗塁	OPS
左	近藤健介	.314(1)	19	72	11	.960(1)
左	柳町 達	.269	4	40	1	.735
中	周東 佑京	.269	2	26	41(1)	.664
右	正木 智也	.270	7	29	1	.739
右	柳田 悠岐	.286	4	35	3	.804
右	川村 友斗	.268	1	14	3	.726

〈獲得タイトル〉

*カッコ内数字はリーグ順位

近藤健介：MVP、B9、首位打者、最高出塁率 周東佑京：B9、GG、盗塁王

移籍2年目の近藤健介は今年も安定して活躍し、初の首位打者に2年連続4度目の最高出塁率のタイトルを獲得。周東佑京も初の規定打席に到達するとともに、41盗塁で2年連続3度目の盗塁王となった。また、不動のレギュラーだった柳田悠岐がシーズン序盤に離脱したが、正木智也、柳町達らが活躍し穴を埋めた。川村友斗や佐藤直樹も守備固め・代走などでチームを支えた。

3.入退団情報

〈主な入団者〉

上沢 直之

3A ウースター→支配下契約

退団でソフトバンクに移籍した、プロ 13 年で 70 勝を挙げた本格派右腕。メジャーリーグではわずか 2 登板に終わったが、日本ハム時代はローテーション投手として安定した成績を残していたため、新天地での躍動に期待していきたい。

上茶谷 大河

DeNA→支配下契約

現役ドラフトで加入。昨季はケガもあって成績は低迷したが、2023 年シーズンには 46 登板、64 回で防御率 2.11 とフル回転している。先発と中継ぎの両方で投げた経験があるので、幅広い活躍が期待される。

伊藤 優輔

巨人→支配下契約

巨人に移籍した甲斐拓也の人的保障として入団。鋭く曲がるカットボールが魅力で、昨季は 2 軍で好成績を修め、1 軍でも 8 試合で防御率 1.04 を記録した。好成績を残していただに、新天地での飛躍に期待したい。

濱口 遙大

DENA→支配下契約

三森大貴とのトレードで入団。プロ 8 年で 90 イニング以上 4 回、2 桁勝利も 1 度と実績十分の先発左腕。制球にやや課題はあるが、球の質は高い。経験を生かしての新天地でのローテ定着に期待したい。

〈主な退団者〉

甲斐 拓也

→巨人

FA 権を行使して移籍。昨季は捕手として 119 試合に出場し、チームのリーグ優勝に大きく貢献したが、2024 年オフに巨人に移籍。人的補償で巨人から伊藤優輔が加入した。扇の要としてチームを引っ張る存在だっただけに、チームへの影響が懸念される。

三森 大貴

→DENA

濱口遥大とのトレードで DENA に移籍。ソフトバンク在籍時はセカンドを中心にユーティリティープレイヤーとして活躍していた。新天地でも持ち前の俊足と巧打を生かして飛躍を遂げたい。

4.期待の若手

谷川原 健太



捕手 右投左打 背番号 45 2015 年ドラフト 3 位

昨年は二軍 74 試合の出場で打率.258、17 打点をマーク。一軍でも少ない打席ながら打率.444、OPS1.278 と存在感を示した。正捕手の甲斐の退団によって、レギュラー捕手定着が期待される。

前田 純



投手 左投左打 背番号 51 2022 年育成ドラフト 10 位

昨シーズンは一軍登板こそ 1 試合だったものの、2 軍では防御率 1.95、10 勝とまさに無

双。2年目となる今期は、開幕ローテ入りに大きな期待がかかる。

5.おわりに

最後までお読みいただきありがとうございました。今回は初めての記事執筆でしたが、予想していた以上に楽しかったです。今年も色々なことがありましたが、個人的には戦力は維持できていると思うので、連覇に期待したいと思います！

パワプロ能力から見る

2025 年の北海道日本ハムファイターズ

80 回 天野 晃希

0. はじめに

普通に戦力予想しても、おもしろくないので、野球ゲームのパワフルプロ野球に収録されている選手のデータと絡めて話していきたいと思います。

能力の見方としては野手はミート（バットに当てる能力）、パワー（power）、走力（足の速さ）、肩力（かたりょく）、守備力（守備範囲の広さ）、捕球（エラーのしにくさ）で、投手が球速（球の速さ）、コントロール（略称コン）、スタミナ（略称スタ）、変化球のパラメータがあります。ほかにも特殊能力とかはあるのですがその辺は調べてみてください。

強さは（←強い）SABCDEFG（弱い→）の8段階で表されます。Dが平均（巨人岡本のミートぐらい）です。それでは本編スタートです。

1. 今年の振り返り

今年の日本ハムは一位のホークスに 13.5G 離されて二位という結果に終わりました。野手陣ではレイエスが規定未達ながらリーグ二位の 25 本塁打を放ち、現役ドラフトで加入した水谷が打率.287 をマークするなど活躍しました。投手陣では伊藤が 14 勝で投手二冠、加藤（コントロール S）、新加入の山崎が 10 勝をマークするなど活躍しました。しかし、首位打者獲得経験のある松本の熱情が鉄を溶かすことができなかった（.236 でミートが B→D へ）など主力の低調が響いた形となりました（ホークスが強すぎるだけ？近藤って日ハムでしょ？）

2. オフの補強

FA で中日から福谷（コンスタ CD）、台湾から古林（火球男）を獲得。現役ドラフトではソフトバンクから吉田（EDFCFF）を獲得。ドラフトでは

二刀流柴田など主に投手を獲得した。

3. 今季の予測オーダー

- 1 水谷 8
- 2 万波 9
- 3 清宮 5
- 4 野村 3
- 5 レイエス DH
- 6 石井 4
- 7 松本剛 7
- 8 田宮 2

9 水野 6

と僕は予想しているのですが、今回はパワプロの能力のみでオーダーを決めていきたいと思います。

4. パワプロでの予想オーダー

この文章を書いている時点では新人選手の能力が出ていないので、ルーキーは入ることがありません。←ちょうどルーキーが一部発表されましたが柴田の野手能力がわからないので、入りません。

あとメインポジションのところのみで考えているので現実の選手運用とは違うかもしれません

捕手

捕手の候補としては田宮 (DDCAEE)、マルティネス (DBEAED)、郡司 (DCCDEF) がいるのですが、特殊能力を加味して考えると田宮が一番率を残せそうなので田宮を選出します。

一塁手

一塁手をメインとしている選手が野村 (ECDDEF) と明瀬 (FDFBFF) しかいないので野村を選出

二塁手

石井 (EDBBCD) のみが守備力 C を超えて突出しているので石井を選出

遊撃手

走力守備力だと中島卓 (EFACBC) なのですが、上川畑 (DECBCD) のほうが総合力が高いので上川畑を選出します。(決して上川畑の応援歌が好き只是因为ありません)

三塁手

清宮 (DBDCDD) か有蘭 (FCCBEE) なのですが、プルヒッター (打球が引っ張り方向に飛びやすくなる) を持っているので清宮を選出。

外野手

能力が高い、松本剛 (DECCBC)、浅間 (DDBACD)、水谷 (DCBCEE)、万波 (DBCSCD)、五十幡 (FESADD)、今川 (ECCCEE) の中から三人選ぶということになります。万波はパワーが高く、肩も強いので確定です。ついで、松本剛が弱体化したとはいえ強いので、選出します。対左投手 (左投手に対する強さ) が浅間は F で、水谷が B なので、左右でスタメンを変えることにします。

指名打者

レイエス (CADCEF) で確定です。パワーが A あって現バージョンで一番パワーが高い現役選手です。

1 浅間/水谷 7

2 松本剛 8

3 レイエス DH

4 万波 9

5 清宮 5

6 上川畑 6

7 野村 3

8 田宮 2

9 水野 4

このようになりました。野村が弱いので下位打線になってしまい、松本剛が2番に入る打順となりました。パワプロはリアルタイムで反映されるわけではなく、なかなか能力は変わりづらいのでそうってしまったのだと思います。選手選出や起用法に異論はあると思いますが、あくまでもゲームでのデータのみをもとにして決めているのでご了承ください。

5. まとめ

ファイターズはケガさえせず好調を保っていればホークスとの優勝争いに勝てるとファイターズファンの先輩が言っていました。正しいと思います。今年は日ハムがリーグ優勝します！！

~~汪越がアカデミーコーチとして阪神に戻ってきたので日本一は阪神です~~

千葉ロッテマリーンズ

79 回生 島田悠希

こんにちは、ファン歴 1 か月の島田です！普段が阪神ファンなことは秘密にして千葉ロッテの部誌を書かしていただきます。千葉ロッテは阪神の次かその次ぐらいに好きな球団で選手の応援歌はそれなりには歌える方。昨シーズンにはディ○ニーシーに行ったついでに ZOZO マリンにも足を運びました。その試合でなんとびっくりセンターフライを岡選手がスタンドに投げ入れてくれてそれをお父さんがキャッチ。(その日のパテレにも若干映ってた。)そのぐらいでまあ僕の自己紹介兼ロッテ愛は終わって本題へ。

① 昨シーズン

昨シーズンは吉井監督 2 年目のシーズンで 71 勝 66 敗 6 分の 3 位、2023 年シーズンの 2 位から一つ順位を落としたシーズンになりました。まーソフトバンクが強すぎますよね、あの戦力には脱帽。個人成績を見ると、捕手が佐藤都志也が打てる捕手として 116 試合出場、打率.278、本塁打 5 を記録。でも盗塁阻止率が.187,,その前年は.319 だったのにどうした、、。日本代表にも選ばれるほどの選手に成長しました。内野手、内野のポジションが総入れ替えになり、藤岡セカンド、中村サード、ファースト安田、DH ソトの構成で始まった。シーズンを通してはセカンドは藤岡と小川、ショートはほぼ友杉、たまに小川、サードは中村がほとんどで残りを安田と上田で分け合い、ファーストには主にソトが入った。

内野手	打率	本塁打	打点	盗塁	OPS
ソト	.269	21	88	0	.780
藤岡	.256	5	29	0	.706
小川	.241	0	21	10	.566
友杉	.206	0	15	11	.474
中村	.234	4	27	2	.631
安田	.228	0	15	0	.592

外野手、ライトからみていくと、ライトはシーズン序盤、5 月半ばまでは山口がスタメンをはるが、あまり活躍することができず山口らしい成績を残すことはできなかった。そこから約 1 か月は岡が務めると 7 月に入ろうとしたあたりで藤原が復帰。そこから 8 月までライトでのスタメンを続けて 9 月以降は藤原と岡の守備位置を交換した感じで岡が再びライトにはいった。センター。センターは

開幕から主に岡が出場。岡がライトに回ってからは高部がセンターのスタメンに鎮座し、8月までその座を守った。9月以降は先述した通り、藤原がセンターに入った。レフトはセンター、ライトとは異なり日替わりでのスタメンでポランコ、角中、荻野、石川慎吾などが入った。DHには主にポランコ、ソトの両助っ人が交互に入っていた。

外野手	打率	本塁打	打点	盗塁	OPS
ポランコ	.243	23	60	0	.778
岡	.287	7	33	11	.806
高部	.300	1	23	10	.728
藤原	.290	2	21	4	.749
角中	.280	3	20	0	.774
荻野	.279	1	15	0	.656
山口	.200	2	13	1	.531
石川	.211	1	5	0	.514

投手陣

小島、種市、メルセデス、佐々木、西野が主にインニングイーターとして活躍。残りの1つを途中加入のサイヤング賞左腕カイケルや唐川、中森、石川、時々ブルペンデーというように回した。(種市が侍で156ぐらいいだしててびびった、イメージ150ぐらいのフォークピッチャーやと思っていたのに。)リリーフ陣は開幕から鈴木昭汰が大活躍で開幕から27試合連続無失点を記録。その後もシーズン終了まで好調をキープし、防御率0.73でシーズンをフィニッシュ。他にも横山陸人、澤村拓一、国吉佑樹、~~態度が悪いで有名な~~坂本光士郎などがリリーフで活躍。抑えには益田直也がほぼ1年間務めた。劇場型として有名のわりに、WHIP(1インニングあたりに何人の走者を出したかの値)は鈴木より低い数値をたたき出していた。(鈴木WHIP1.01、益田WHIP0.98)それでも防御率は益田の方が1.8ぐらい高いからまあ劇場型といわれても仕方ないか、。

先発	登板数	防御率	勝利	敗戦	投球回	WHIP
小島	25	3.58	12	10	163.1	1.18
種市	23	3.05	7	8	147.1	1.13
佐々木	18	2.35	10	5	111.0	1.04
メルセデス	21	2.71	4	8	126.1	1.04
西野	20	3.24	9	8	122.1	1.23
カイケル	8	3.60	2	4	40.0	1.30
石川	5	3.70	3	1	24.1	1.48
唐川	8	2.37	3	2	38.0	0.82
中森	5	2.63	1	1	24.0	1.25

救援	登板数	防御率	HP	セーブ	WHIP
鈴木	51	0.73	29	5	1.01
横山	43	1.71	21	3	0.95
国吉	41	1.51	13	1	1.03
澤村	39	3.34	16	1	1.23
坂本	37	5.73	12	0	1.39
益田	44	2.59	7	25	0.98

② 昨シーズン今シーズンの主な選手の入れ替え

<退団>

カイケル(投手)

佐々木朗希(投手)

井上晴哉(内野手)

<入団>

西川史礁(外野手)

石川柊太(投手)

ゲレーロ(投手)

ご存知の通り、佐々木朗希がポスティング制度を使い MLB ロサンゼルス ドジャースに移籍。25 歳未満の選手はマイナー契約しか結べないという 25 歳ルール(佐々木の場合はマイナー契約したのちメジャー 契約をして東京シリーズ第 2 戦に登板)によって球団への譲渡金は、2 億 5000 万円ほどにとどまった。ちなみに 25 歳で海を渡った山本由伸投手の譲渡金は 71 億円ほど、、、。代わりに石

川投手を FA で補強。佐々木の穴埋めを 1 人するのは難しいと思うが大きな戦力となることを期待している。またエンゼルス傘下にいたグレーロを再獲得。22 年にロッテに在籍しており 163km/h を記録した剛腕で活躍が期待される。野手ではドラフト 1 位で西川を獲得。大学生時代に井端ジャパンに選ばれており 25 年のオープン戦でも規定未到達ながら、410 と隠れ首位打者に輝いた。岡、藤原、高部、山口らとの熾烈な外野手争いを制してスタメンを勝ち取れることを期待している(吉井監督が開幕スタメンは明言)。

最後になりましたが僕のロッテで 1 番大好きな応援歌を紹介して終わりにしたいと思います。

藤岡裕大 ラララ… 行け藤岡裕大 夢見たその先へ 勝利を呼ぶ一打今
放て (23CS の同点 HR が印象的)

ネフタリ ソト バモネフタリ バモネフタリ オオオ… ソ
ト！ラララララ…ソト！ (言わずとしれた魔曲)

荻野貴司 ラララ…駆け抜けろホームまで 荻野貴司
(演奏)打て荻野(タ カ シ！)(3 番目に好き)

角中勝也 ララララ角中 ララララ角中 さあ戦え 角中 勝利へ導け栄光
の時を目指して (2 番目に好き)

ポランコ 【前奏】オイ！オイ！オイ！オイ！……
【曲】エルコーヒー エルコーヒーエル
コーヒーホームラン
エルコーヒーホームラン (たーたたーたーたーたーたー
て感じの前奏いいですね)

山口航輝 ラララ…山口 オオオ…×2
(演奏)やまぐっち！(演奏)やまぐっち！ラララ…×2 (1 回聞いて
みてください、やみつきになります)

チャンテ 3 (演奏)レッツゴー (演奏)○○！
燃え上がれ 燃え上がれ 勝利をつかみとれ (演奏)○
○！ (演奏)攻めろ今こそ
(1 番好きです、ジャンプもいいけど歌もかっこいい、高校野球でも
流れてるけどやっぱ ZOZO マリンのロッテファンが歌うこれが
野球の応援で 1 番きれいでかっこいい)

いかがだったでしょうか。ロッテ愛はこの部誌を読んでいただく方には及ばないかもしれませんが少しでも楽しんでいただけたら幸いです。ありがとうございました。

楽天ゴールデンイーグルス

79回 畝健心

1. 昨年の総評

昨年度はソフトバンク 1 位以外はオリックス 5 位など波乱が起きたパ・リーグ(なお西武も定位置)において交流戦で優勝したもののその前の年と順位の変化が唯一なかった楽天(67 勝 72 敗 4 分で 4 位)ですが、課題を挙げるならば、投手でしょう。チーム防御率が両リーグワースト (12 位楽天 3.74 11 位ヤクルト 3.64 10 位 ロッテ 3.17) と一チームを除き、他チームと大差をつけられ得失点差も 4 位楽天 -87 5 位オリックス -46 となり、最終的にオリックスと 4.5 ゲーム差と客観的に見ると 4 位だったのも奇跡と言えるような結果でした。しかし、早川の 2 桁勝利と辰巳の最多安打、安田が終盤に活躍、注目株である宗山塁を 5 球団競合から引き当てるなどポジティブな部分が多く、今年は十分期待できるチームだと思います。

2. 今年の戦力

2.1 投手編

<先発> 昨年 先発防御率 3.63(リーグ 6 位)

右:岸 ヤフーレ(内、ハワード)

左:早川 藤井 古謝 辛島

昨年度は課題が残った先発陣ですが、今年もここがカギになってきそうです。

ハワードが怪我で開幕で出られないことがほぼ確定してしまい開幕前からもう苦しいところではありますが、早川、岸、藤井は昨年度から好投が続き、防御率が 3 人とも 2 点代、この 3 人の次に昨季は投げていた内選手が中継ぎ転向し、今年は昨季から埋まりきらなかった残りの 2 枠含めた 3 枠をどう埋めるか次第になってきそうです。古謝の台頭、藤井が昨年並かそれ以上を出せるかに注目です。なんで昨季は防御率 2 点台が 3 人ローテにいてそんなに先発防御率が悪かったのだろうか? ~~セント・ポンセ~~

<中継ぎ> 中継ぎ防御率 3.81(リーグ 6 位)

右:則本 宮森 内 西垣 江原 渡辺 藤平 西口 松井 今野

左:鈴木翔 ターリー

宋が全治 6 か月の怪我、酒井トミージョン手術とが開幕前に出られないのが確定してしまい、昨年度までのブルペン陣を支えていた 2 人がいなくなったことで、リリーフ自体の数はもともと多いのですが、計算はできなく、正直始まってみないと分からないのが現状(執

筆時:開幕直前)です。逆に、宮森が台頭した時のように、予想していなかったところからすさまじい活躍をする選手が出てくる可能性も十二分にあるので今年はそれに期待です。どこまで投げられるかは分からないけど、西口の復帰は嬉しい。あと、最多セーブをとったものの終盤安定感のなかった則本選手の抑えが年間通して安定するかにも注目です。

2.2 野手陣

今年の予想スタメン（昨年度の打率、本塁打数、打点）

14 小深田 .229 3 本 23 打点 B9 GG

26 宗山 新人

39 小郷 .257 7 本 49 打点

48 辰己 .294 7 本 58 打点 最多安打 B9 GG

53 浅村 .253 14 本 60 打点

65 村林 .241 6 本 50 打点

70 フランコ .218 8 本 30 打点

82 太田 .196 2 本 23 打点

97 田中 .129 0 本 1 打点

このメンバーと伊藤、阿部、鈴木大を組み合わせたものが基本スタメンになりそうです。

2024 年度は、辰己が覚醒し、打率 2 位、最多安打を受賞。小深田も持ち前の守備、足を活かし B9 と GG。小郷も前年のブレイクに続き、全試合出場、30 盗塁を記録。村林も完全にブレイクしました。しかし、前年本塁打王だった浅村の調子が悪く、11 本本塁打が減るなど、右打者に課題が残る結果だったと思います。今年は新たに、宗山が加入し、内野手の層が厚くなった印象です。個人的には島内はもう一花咲かせてほしいところです。

2.3 新戦力

今年も多くの選手が新しく入団しました。その中でも個人的に注目の選手を何人かピックアップしようと思います。

(1) 宗山塁

やはりなんといっても今年はドラフト No.1 注目選手だった宗山に期待でしょう。ルーキーであり、1 年目から活躍するか保証はできないものの走攻守三拍子そろった素晴らしい選手で、これから 10 年、15 年とチームを背負うポテンシャルがある選手だと思うので頑張ってもらいたいものです。

(2) ヤフーレ

昨年ヤクルトで防御率 3.34 (←??) と悪くない成績を残して移籍してきたヤフーレ。ハワードが怪我で離脱した今、彼の活躍は A クラスに入るためには必須級。先発ローテを無事 1 年守り切り好成績を残すことに期待です。

(3)西口直人

2017 年から楽天に在籍している西口だが、2023 年のトミージョン手術から昨年復帰し、今年の 2 月に支配下に戻ってきたので新戦力のところで紹介させてもらおう。2022 年に 61 登板 防御率 2.26 とセットアッパーとして活躍しており、実力は折り紙付き。万全の状態で戻ってきたならば活躍必至のリリーバー。

他にも新人のドラフト 4 位の江原、阪神から移籍してきた加治屋にも期待です。

3.最後に

正直今年の楽天は投手陣が予想できなく、これを読んでいるころはどうなっているか見当もつきません。昨年ブレイクした藤井、覚醒した辰己の成績の安定、新戦力たちが期待以上の活躍を祈りながら文を締めたいと思います。お読みいただきありがとうございます。

オリックス・バファローズ

79 回生 重永 真拓

1. はじめに

2024 年のオリックス・バファローズはリーグ 4 連覇、そして 2 年ぶりの日本一を狙う年でしたが、5 位に沈み、投打でけが人も多く、精彩を欠きました。少し前のオリックス・バファローズが見え隠れした 2024 年シーズンについて詳しく見ていきましょう

2. 2024 年シーズンの総括

143 試合 63 勝 77 敗 3 分 勝率.450(5 位)

打率.238(5 位) 本塁打 71(5 位) 防御率 2.82(2 位)

ここ数年間で見れば見慣れないが、~~ここ 10 年間で見れば見慣れた~~ような数字が並んでいます。投手に関しては、上々の出来と感じました。しかし、絶対的エースだった山本選手、山崎福也選手の移籍、2023 年大活躍していた山崎颯一郎選手、宇田川選手の不調などが影響して 2023 年ほどの支配的な雰囲気ではなかったです。そして、問題なのは野手陣です。去年チームを引っ張った頓宮選手や FA 移籍で加入してきた西川選手の不振、中川選手や森選手のけがなど、主力選手が期待に応えきれず、結果として慢性的な貧打に陥りました。ここからは、ポジションごとの戦力についてみていきましょう。

3. 今年の戦力

<先発> ()内は防御率)

宮城大弥(1.91)、エスピノーザ(2.63)、曾谷龍平(2.34)、田島大樹(3.68)、カスティージョ(2.96)など

主にイニングを食っていた先発はこの 5 人でした。こうしてみると A クラスのチームにも全く引けを取らない投手陣ではないでしょうか。まず、宮城選手ですが、文句なしにエースといえるほどの支配的な投球を毎試合安定的にしていました。けがで規定投球回を逃したのが悔やまれます。最終登板試合で雨さえ降らなければ、、

エスピノーザ選手は、この年から助っ人外国人としてオリックスに加入した選手ですが、1 年目にしては十分すぎる成績を残してくれました。たまに荒れることもありましたが、年間通して投げ続けてこの防御率なのは素晴らしい。そして彼はとてもナイスガイ。そして今年一番成長を感じたのが曾谷選手。去年までは四死球を与えすぎ

て自爆しているイメージがあったのですが、今年からはそれが改善され、シーズン中盤からは何度も与四球が0の試合を作り、終わってみれば20試合、防御率2.34、117奪三振、27与四球と素晴らしい成績でシーズンを終え、侍ジャパンにも選出されるなど、飛躍の年となりました。2025年も活躍し、オリックスのエースの一角に成長してほしいですね。一方で、2023年大活躍し、リーグ優勝に貢献した東選手、山下選手が思うように活躍できていなかったように感じました。ブレイクした選手がその後も活躍してくれれば巨大な投手王国が成立しそうなものですが、そう簡単にはうまくはいかないものですね。

＜中継ぎ、抑え＞()内は防御率)

マチャド(2.03)、古田島成龍(0.79)、山田修義(2.08)、吉田輝星(3.32)、鈴木博志(2.97)、井口和朋(4.18)など

新戦力が多く台頭した(というか大体新戦力、)年となりました。まずマチャド選手。この年から助っ人外国人として加入しましたが、不調の平野選手、山崎颯一郎選手に代わって、抑えとして1年間しっかり活躍してくれ、頼もしい存在でした。そして、今年ブレイクした古田島選手は、『初登板から22試合連続無失点』という、歴代のNPB記録に並ぶ記録を打ち立て、防御率0.79と恐ろしい数字を残しました。途中加入したペルドモ選手(2023年最多ホールド)と古田島選手、マチャド選手の勝ちパターンの安心感はすごかったです。また山崎福也選手の人的保障として日本ハムから移籍してきた吉田選手は、どの場面でも投げる投手として1年間活躍してくれました。他にも、移籍してきた井口選手、鈴木選手も古巣での実績があるだけあり、いい仕事をしてくれました。

ただし、1つかなり気になる点があります。そう、去年とメンバー変わりすぎではないですか？なんなら、ここ数年毎年メンバー変わりすぎではないですか？以下はオリックスの年度別の登板数上位6名を並べたものです。()内は防御率)

2024年：マチャド(2.03)、古田島成龍(0.79)、山田修義(2.08)、吉田輝星(3.32)、鈴木博志(2.97)、井口和朋(4.18)

2023年：山崎颯一郎(2.08)、阿部翔太(2.70)、宇田川優希(1.77)、平野佳寿(1.13)、小木田敦也(2.19)、山田修義(1.15)

2022年：平野佳寿(1.57)、阿部翔太(0.61)、本田仁海(3.50)、ビドル(4.02)、近藤大亮(2.10)、ワゲスパック(2.97)

2021年：富山凌雅(2.72)、ヒギンス(2.53)、平野佳寿(2.30)、山田修義(2.27)、K 鈴木(3.03)、漆原大晟(3.03)

やはりこれを見ると、2年以上が3人、3年以上だと2人だけとかなり入れ替わりが激しいことがわかります。確かに中継ぎは入れ替わりが激しいポジションですので仕方ない面もあると思いますが、計算できる中継ぎが少ないと厳しいものがあると思います。ただ、ここに載っているような選手は皆さん素晴らしいポテンシャルを持っていますので、2025年シーズンに期待したいところです。宇田川選手や吉田選手は今年トミージョン手術を行っているので、2025年シーズンの復帰は厳しいと思いますが、いつかまた第一線で活躍するのを楽しみにしておきましょう！

<野手>(()内は順に打率、本塁打)

西川龍馬(.258,7本)、紅林弘太朗(.247,2本)、森友哉(.281,9本)、太田涼(.288,6本)、セデーニョ(.260,15本)、宗佑磨(.235,1本)、西野真弘(.300,1本)、若月健矢(.201,3本)、頓宮祐真(.197,7本)など

まず、チーム本塁打が71本とかなり少ないですね。ただ、そもそも2024年シーズンは打低なうえ、そもそもオリックスはホームラン数が多いチームではなかったので見逃すとしましょう。問題なのは、チーム打率が.238と近年のオリックスにしては低すぎることです。そもそも2023年シーズン犠打も盗塁も少なくエラーがそこそこ多かったのに強かったのは、投手陣が圧倒的だったうえ、打率や得点圏打率が高く、本塁打も2024年と比べて1.5倍ほどだったので、盗塁やバントをしなくてもある程度の点を安定してとることができ、時には打線がつながりビックイニングを作ったうえで、投手陣が逃げ切るというパターンを確立できていたからだと思います。そういうチームにとって、打率が.012、得点圏打率が.019下がることは、ビックイニングを作ることも、そこそこの点を取ることも困難なことになることを意味します。2024年チーム最多本塁打の15本を放ったセデーニョ選手が西武に移籍したことで、2025年はさらなる本塁打数の低下が予想できます。そういう時こそ、機動力を使い、1点ずつ確実にとっていく姿勢が大事だと思います。ここまで悪く書いてしまいましたが、いいこともありました。例えば、太田選手の活躍です。今まで、短期的には結果を残していましたが、けがなどであまり試合に出られていませんでした。しかし、2024年は、7月に短期間の離脱があり、規定打席には到達しなかったものの、91試合に出場、369打席に出場し、打率.288と素晴らしい成績を残してくれました。これからチームを引っ張っていく存在になってくれることに期待したいです。また、森選手は3,4月は打率.198と絶不調だったものの、そこから巻き返し、打率.281(リーグ3位)、出塁率.368(リーグ2位)と、長年パリーグを代表する強打者としての底力を見せてくれました。

4. 最後に

2024 年は 3 連覇時の主力選手の多くがけがや不調に悩まされ、結果として 5 位という悪い結果に終わり、長年チームを引っ張ってきた T-岡田選手(京セラドームに応援に行って、チームが負けても、チャンス時の「カーニバル」を聞き全力で応援歌を歌うことができれば、それだけで満足して帰れました。もうできないと考えると寂しいです。)、安達選手、比嘉選手、小田選手の引退や、低迷していたチームを 3 連覇、そして日本一に導いてくれた中嶋監督の辞任など、悲しいニュースも多かったシーズンでしたが、オリックスはこれで終わるチームではないと信じています。まだまだやれると思います。今年不調だった選手の復活、2024 年ブレイクした選手の活躍、新戦力の台頭で、2025 年オリックスが再びチャンピオンリングを手にすることを期待しつつこの記事を終わりとさせていただきます。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

西武ライオンズ

81 回 花野 励

1. 初めに

始めまして、81 回生の花野です。僕自身は阪神ファンかつオリックスファンなのですが、今回なぜか面白そうと思い、昨年最下位に沈んだ西武の記事を書かせていただきました。

~~（本当に寝不足の時って思いがけないことをしますよね...）~~今回は初めてということもあり、記事が少し西武の弱さについての原因を探るものになっていることもあるので、西武ファンの皆様を不快にしまうことがあるかもしれません。先に謝罪しておきます。誠に申し訳ございません。

2. 現有戦力分析先発投手（候補）

選手名	防御率	投球回	登板	勝利	敗戦	奪三振
高橋光成	3.87	81.1/3	15	0	11	61
渡邊勇太郎	2.67	87.2/3	14	3	4	50
武内夏暉	2.17	145.1/3	21	10	6	107
隅田知一郎	2.76	179.1/3	26	9	10	154
與座海人	4.81	24.1/3	7	1	4	13
今井達也	2.34	173.1/3	25	10	8	187

選手ごとに見ていきま

す。高橋光成

メジャーを見据えるなら今年結果を残すしかないでしょう。最低でも 150 回くらいを投げ

ながら 13 勝くらいはしてほしいですね。ロン毛やポストティングの申請など批判はあると思いますが、それは期待の裏返し。成績で黙らせてほしいです。

渡邊勇太郎

通称“ナベ U”。まとまったコントロールと MAX153 の直球が武器の安定感あふれるピッチャー。今年は 7 勝くらいしてほしいですね。

武内夏暉

左腕ながら 154 キロのストレートを誇り、多彩な変化球と抜群のコントロールが武器の素晴らしいピッチャー。ケガがちなのはご愛嬌。

隅田知一郎

ストレートと“魔球”チェンジアップの緩急で三振の山を築く安定感抜群の左腕。二桁絶対に勝てる逸材。

與座海人

テンポよく投げ込むサブマリン。緩急を使った、打たせて取る投球が魅力のアンダースロー。与四球率が素晴らしく、ゴロを打たせる低めのコントロールの安定感がある。

今井達也

昨年最多奪三振のタイトル獲得。最速 159 キロながらシュート成分の強い剛速球と抜群の奪三振率を誇るスライダー（ジャイロスライダー？）のコンビネーションで相手を制圧する絶対的エース。

まとめ

まあまあ層が厚いです。左右のバランスも良く、制圧力の高い投手から技巧派まで様々なタイプのピッチャーがいるので、平良を抑えにするのもうなずけなくはないです。

ここにさらに今期期待されているのが、最速 149 キロの伸びのある直球を投げる菅井投手です。制球にこそ難があるものの、スライダー、チェンジアップ、カットボールにチェンジアップも投げるサウスポーです。期待しましょう。

救援投手

選手名	防御率	投球回	登板数	HP	奪三振
平良海馬	1.66	48.2/3	22	9	43
田村伊知郎	1.82	29.2/3	28	0	24
佐藤隼輔	1.69	37.1/3	45	16	31
甲斐野央	2.95	18.1/3	19	10	15
平井克典	4.66	9.2/3	13	4	6
羽田慎之介	2.76	16.1/3	9	0	11

先発に比べると少し層の薄さが目立ちます。平良こそ計算できるものの、そこまでつなげるリリーフが少ないです。そんなこと西武フロントは 100 も承知。リリーフを補強しています。

一人ずつ見ていきましょう。まず目玉級のウィングエンター。2m 越えの長身から最速 160、平均 155 のストレートと異次元の空振り率を誇るスライダーで相手打線を制圧しきるピッ

チャー。個人的には 8 回の男になれる可能性が大いにあると思われます。しかし、制球難とランナーへの対応がカギを握るか。ここにスプリットもあるのでうまくはまればモイネロ以上の制圧力が発揮されると思います。

二人目はラミレス投手です。素晴らしい奪三振率を誇るフォークと中継ぎにしては珍しい大きく縦に割れるカーブ（ナックルカーブ）が武器の素晴らしいピッチャーです。7 回を任せられるポテンシャルはあると思われます。

そして戦力外から獲得した黒木選手です。どこでも投げられるタフさを買って獲得したのでしょう。若干の層の薄さこそ残ってしまうものの、合格点は超えているといっているでしょう。個人的には背水の陣で臨んでいるベテラン平井投手や反骨心に満ち溢れている剛腕甲斐野投手の復活、甲子園に近江旋風を巻き起こした山田投手に期待をしたいと思います。フォームが山本由伸に似てきましたね。

また、この原稿を書いているときにちょうど中継ぎ転向と知った羽田慎之介投手も勝手に注目しています。詳しく言うと、和製ランディジョンソンの異名をとる最速 157 キロのストレートが武器のロマンの塊のような左腕です。粗さこそあるもののポテンシャルは球界でもトップクラス。殻を破れるかに期待がかかります。

野手

野手編は少し形式を変えて去年の反省、そして今年の展望の順に話していきます。去年の反省

チーム打率は最下位となる.212、打点も最下位となる 334（な阪関無）、本塁打も最下位の 60 本という素晴らしく戦う顔をしたトリプルシックス。ここが勝てない諸悪の根源でしょう。さらに高齢化（栗山、おかわり、源田、外崎、そして炭谷などチームを支え続けたベテランの高齢化）も課題です。しかしこれのみならず、平石洋介ヘッドコーチも嘆いていましたが、とにかくぬるいという雰囲気も弱い原因でしょう。今僕がちょうど書いているときに佐藤龍世が遅刻で三軍に降格したという情報が入ってきていたことから、今年もおそらくぬるさは変わっていないでしょう。

今年の展望

まずネビン。クリーンナップを担えるくらいの打撃力はあるでしょう。詳しく述べていきます。

ファースト、サード、外野を守る助っ人です。メジャーでのデータを見ると、空振りは平均程度で、ボール球のスイング率が平均よりも低い非常に良いアプローチができている高 OPS の助っ人です。メジャーレベルだとストレートへの対応がネックだったのですが、平均球速が落ちる日本球界だと通用する可能性は十分あるかと思われます。広角に長打が打てるというのも大きな魅力です。

続いてセデーニョ。DH 確定です。あの化け物じみたパワーは魅力です。こちらもしっかり見ていきましょう。

昨年までオリックスに在籍していました。好不調の波こそ激しいものの、実働一年目であることや年齢が若いことを考えれば、日本に適応して 25 本くらい打ってもおかしくはないと思います。

そしてソフトバンクから移籍してきた仲田慶介選手。去年は二軍で四割を打ちながらも

戦力外となってしまった内外野を守れるスイッチヒッター。YouTube でストライク送球のレーザービームが注目を浴びましたが、チーム事情的におそらくセカンドを守るでしょう。努力の人なので本当に報われてほしいです。

そして最後が現役ドラフトで獲得した平沢大河選手です。ユーティリティ性とシャープなスイングが魅力の選手です。おそらくセカンドを守ることになるでしょう。

ドラフトの注目選手

まず一位。外れ外れ一位とはいえども良い選手を獲得しました。金沢高校の齋藤大翔内野手です。打撃は少し粗さもあるものの、特筆すべきはルーキーとは思えないような安定感のある守備です。数年後には源田の後継を担える逸材でしょう。

そして二位、実質 1 位のようなものです。侍ジャパンでも躍動した渡部聖弥選手。うまく育てば侍ジャパンでも四番を張れるでしょう。期待しかありません。侍ジャパン選考合宿の際に、スイングスピード 150km、打球速度 170km とどちらも NPB 平均が 140km、158km であることを考えると素晴らしい数値と言えるでしょう。これに加えて強肩、羨ましいですね。そして個人的に注目しているのは 175cm と小柄ながら、二塁送球 1.8 秒の強肩と俊足が武器のドラフト六位、龍山暖捕手です。ロマンがあります。育成三位のラルメル選手も注目しています。守備など基本的なところに少し難があるためこの順位になりましたが、打撃に関して言えば間違いなく将来四番を張っているでしょう。名門大阪桐蔭でも強い印象を残してくれました。同校の先輩、中田選手を超えるくらいのポテンシャルを秘めています。総括としては良い指名ができていると思います。バランスも良く、非の打ちどころがありません。あとは順調に育つかどうかだけです。

スタメン予想

- | | | |
|----|----|--------------|
| 1. | 二 | 仲田（平沢、山野辺） |
| 2. | 遊 | 源田 |
| 3. | 左 | ネビン |
| 4. | DH | セデーニョ |
| 5. | 右 | 岸潤一郎（松原、長谷川） |
| 6. | 三 | 佐藤龍世（外崎） |
| 7. | 中 | 渡部聖弥（西川、蛭間） |
| 8. | 一 | 村田怜音（野村大樹） |
| 9. | 捕 | 古賀（柘植） |

今回は僕の好きな仲田選手を一番に抜擢しました。期待と世代交代の意味を込めて外崎選手ではなく、佐藤龍世選手をサードとさせていただきます。そして八番に入っている村田怜音選手。知らない人も多いと思うので説明したい（熱く語りたい）と思います。一言で表すならロマンの塊。ものすごい打球速度を誇るロマン砲。今年のキャンプでは

去年 より力がうまく抜けていて、ヘッドが走っています。ブレイクの兆しは確実に感じられます。最後に、崖っぷちですが良い意味でベッケンには見返してほしいですね。栗山、おかわりくんらが代打にいるべきですね、本来。

3. 終わりに

ここまでお読みいただきありがとうございます。どうだったでしょうか。拙い文ですが大目に見てあげてください。来年は中日とかで書いてみたいなあと思いながら、筆をおきたいと思います。

12 球団球場訪問記

80 回 天野 晃希

0. はじめに

はじめましての方ははじめまして、久しぶりの方は久しぶりです。80 回生の天野です。今回筆者は、この部誌に対して別の文章を上げようと思っていたのですが、執筆がめんどくさすぎて落としてしまったので、球場訪問記となりました。ぜひ楽しんでください。

1. 概要

昨日、筆者は 12 球団の本拠地球場 + α を訪問（本当に訪問するだけ）を達成したので、今回はこれらの球場について書いていきたいと思います。

2. 北海道

・大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）（2023 年訪問）

いきなり今の本拠地じゃないところが出てきました。若いファンは知らないかもしれませんが、昔（3、4 年前ぐらい）まではここが北海道日本ハムファイターズの本拠地だったんですよ。

札幌ドームには一昨年にあった鉄研旅行（鉄道研究部が毎年夏に行う取材旅行）の時にきました。地下鉄福住駅からバスで少し行ったところにあります。バス停を降りても見えるのは、鬱蒼とした森だけなんです。歩道橋を渡ってその森に分け入ると、札幌ドームが見えてきます。札幌ドームというか銀色のナマコですが。筆者が行ったときは平日なので人があまりいませんでした。隣にはサッカーで使う芝を干している広場みたいなところがあり、その外周を歩いていた地元の人に写真を撮ってもらいました。

・エスコンフィールド HOKKAIDO（2023 年訪問）

札幌ドームの後に行きました。北広島からは歩きましたがやっぱり遠いですね。早く新駅開業してほしいです。試合がない日だったのですが、無料で中に入れてもらえて良かったです。キャッシュレス決済のみだったのは許しません。新しくできた球場ということできれいでした。あとレフトスタンド近くにあるピザ屋はおいしかったです。送迎バスは新札幌まで行ってくれるやつもあったので、乗換案内と自分の頭と相談して考えましょう。

3. 東北

・楽天モバイルパーク宮城（K スタ宮城）（2024 年訪問）

よく名称変更しているので世代がわかることでおなじみの球場です。仙台駅から仙石線ですぐの宮城野原駅から行くことができます。行った日があいにくの雨だったのですがピンクが映えていました。グッズだけ買って帰ろうとしましたが、試合がやっておらず、グッズショップも開いてなかった上にキャッシュレス決済のみでした。キャッシュレスのみ

は絶許。近くには陸上競技用のスタジアムがあるなど運動公園という感じがしました。

4. 関東

・ベルーナドーム（西武ドーム）（2024 年訪問）

上の宮城に行く前に訪れました。最寄りには西武線の西武球場前です。鉄道会社が運営していることもあり駅から近くてとても良いです。なお球場内部は。試合がある日に行ったので、グッズショップに入るためにはチケットがいるとのことだったのでグッズショップに入ることはできませんでした。最寄り駅が頭端式ホームでかっこいいのでぜひ見に行ってみてください。

・東京ドーム（2019 年訪問、2025 年試合観戦）

最寄りには JR 中央線、地下鉄東西線、水道橋です
一回目は野球殿堂博物館に行きました。とくになし
二回目は今年 3 月 16 日にドジャース阪神戦を見てきました。あいにくの雨だったのですが、見に行く前にお休みの芳文社を見ていったのでテンション爆上げのまま行きました。カメラが寒さで結露してしまったので温めていたり、1000 円もする牛めし弁当を食べていたら、試合が始まりました。結果は阪神が 3-0 で勝ちました。阪神が世界一ってことですね。球場は段差が急だったので上からでもきれいにみることでしたので球場は高評価です。キャッシュレス決済しかない上に物価も高かったのは許せない。

・明治神宮野球場（2019 年訪問、2025 年試合観戦）

最寄りには銀座線外苑前駅です。

一回目は東京ドームの後夜に行きました。とくになし
二回目は今年 3 月 15 日にオリックスヤクルト戦を見てきました。オリックスを応援していたら普通に負けました。三連覇球団がんばってくれ。夏祭りを歌いたかったのですが試合中に流れなかったもので、諦めていたら、試合後に流してくれたので最高です。きーミーが一いた一な一つは一、甲子園と比べてやっぱり狭かったです。

・ZOZO マリンスタジアム（QVC マリン）（2024 年訪問）

最寄りには海浜幕張駅です。西武球場の前に行きました。

風が本当に強かった。パーフェクト達成した方の佐々木選手が外周に貼られていましたが、じゃない方の佐々木のクリアファイルを買いました。駅から遠くてアクセスが不便です。神戸！慎吾！したかったですね……。

・横浜スタジアム（2024 年訪問）

最寄りには京浜東北線関内駅から徒歩 5 分ぐらいです。

千葉マリンに行く前に行きました。雨が降っていたので外周を一周して、グッズショップだけ行って帰りました。キャッシュレスだけじゃないのは高評価ポイント。観客席いっぱいあって楽しそうです。

5. 中部

- ・バンテリンドームナゴヤ（ナゴヤドーム）（2023 年、2025 年訪問）

最寄り駅は地下鉄ナゴヤドーム前矢田

一回目はマジで写真撮るだけで終わりました。

二回目は今年 2 月に行きました。外周を一周しましたがやっぱり広いですね。きれいなドームの形をしていて見るのは楽しいです。早く板山と山本に個人応援歌つけてほしいですね。テラスつけるらしいのでつける前に見に行きたいですね。

6. 関西

- ・京セラドーム大阪（2015 年、2019 年、2021 年、2022 年、2023 年、2025 年試合観戦）

最寄り駅は阪神、地下鉄のドーム前です。近（江電）鉄の京セラ前にはないので気を付けてください。

一回目の時はオリックス阪神戦で 16－1 で阪神が負けました。

二回目以降は本拠地開幕戦をだいたい毎年見に行っています。なので、あの伝説の予祝の時の負けも現地で見ました。今年は勝てるといいですね。

球場としては、オリックス戦のときはガラガラで、阪神戦のときはめちゃくちゃ混むことが多いですね。グラウンドでよく跳ねるのでフェンス高いのにたまにエンタイトルツーベースが出ます。

- ・阪神甲子園球場（2017 年～2025 年試合観戦）

最寄り駅は阪神電鉄甲子園です。マジで近い。

いわずと知れた阪神タイガースの本拠地です。本当に広い上に、応援の声がよく響いてる。22 時以降は鳴り物応援禁止のはずなのに響いている。筆者はこの球場で、血涙の 9 点差、鳥谷 2000 本安打の翌日にサヨナラ打、ウィル長坂大活躍、大山一試合三本、横田追悼試合、阪神優勝、CS ファイナル、日シリ、秋山引退試合、など数々の名勝負を見ています。現地に行けないときはサンテレビで見ている。サンテレビは俺たちの味方や！銀傘がないところだと雨が降るとしんどいので、ちゃんと避難するかポンチョとかで防ごう。（試合終了後の席が一番汚い球場だと思う）

- ・日鉄鋼板 SGL スタジアム尼崎（2025 年試合観戦）

最寄り駅は大物駅です。

この部誌に解説記事が載っていると思うのでそちらをご覧ください。ここでもなべりよ、早川、野口のサインをもらいました。めちゃくちゃ球場がきれい。

7. 中国

- ・Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島（2024 年訪問）

最寄り駅は新幹線など広島駅。新幹線から見える。

めちゃくちゃ赤い。ローソンさえも赤くなっている。外周を一周することはできません。一度はここでスクワット応援してみたいですね。駅からは少し遠いのですが。広島選手の看板とかがあります。

・倉敷マスカットスタジアム（2024 年訪問）

最寄り は山陽本線の中庄です。

なんか雰囲気が ZOZO マリンと似ています。年に一度阪神が一軍公式戦をやっていますが、広島と兵庫の中間ということもあり、広島ファンと阪神ファンが半々ぐらいです。外周の池にちょっと遊べるアスレチックみたいなものがあるのですが、落ちそうになりました。

8. 四国

・松山坊っちゃんスタジアム（2023 年訪問）

最寄り は JR の市坪です。無人駅でとても田舎です。

ヤクルトがたまに主催試合をやったり、オールスター戦が開催されたりするなど、実績がある地方球場です。パワプロシリーズにもマスカットスタジアムと一緒に収録されています。俳句甲子園の全国大会の付き添いに行ったときに行きました。みなさん文芸同好会に入りましょう。

9. 九州

・みずほ paypay ドーム（福岡 Yahoo! JAPAN ドーム）（2025 年試合観戦）

最寄り は地下鉄の唐人町です。

高速道路から見えます。あまりドームという感じではなく、コロシウムみたいな感じがします。屋根が開くことがあるからですかね？ 海が近いので球場の外は風がめちゃくちゃ強いです。

10. まとめ

次は 12 球団二軍本拠地 & 地方開催時の球場巡りですかね。

ゼロカーボンベースボールパーク訪問記

78回 大鳥 秀高

まえがき：自己紹介

こんにちは。高3(78回生)の大鳥秀高です。熱烈な阪神ファンの父から後樂園の大男は悪の帝国だという英才教育を受け始めて12年、父と同じように阪神ファンとなりました。特に灘に入ってから、学校が臨休の日には決まって鳴尾浜で阪神の2軍の試合を見るまでになりました。そして今年、鳴尾浜にあった阪神の2軍の球場および練習施設が尼崎市大物に移転し、新球場「日鉄鋼板 SGL スタジアム尼崎」を核施設とした「ゼロカーボンベースボールパーク」となったため、期末試験後の臨休を利用して行ってまいりました。この記事では、新球場と新球団施設一帯の魅力を、実際に訪問、観戦した感想も踏まえて阪神ファンの目線でお伝えしていこうと思います。(本当はネタ被りしそうだから書かないつもりだったのですが、なぜか被らなかったので大急ぎで書いております。ほんまにここ神戸の学校の野球ファンサークルなん?)

1. ゼロカーボンベースボールパーク・日鉄鋼板 SGL スタジアム尼崎の基本情報

1-1. ゼロカーボンベースボールパーク

- ・所在地: 小田南公園
- ・構成施設: 阪神2軍施設(日鉄鋼板 SGL スタジアム尼崎、内野練習場、室内練習場、選手寮兼クラブハウス「虎風荘」)、小田南公園軟式野球場、小田南公園広場

1-2. 日鉄鋼板 SGL スタジアム尼崎

- ・両翼: 95m、中堅: 118m、左中間・右中間: 118m、フェンス: 3m (甲子園と全く同じ形、大きさ、方角)
- ・内野: 黒土、外野: 天然芝、LED 照明(甲子園と全く同じものを採用)、
- ・収容人数: 約 3600 人 (内野席) + 約 800 人 (臨時外野席)。内野席の収容人数は鳴尾浜球場の 7 倍以上。
- ・アクセス: 阪神電車「大物駅」(本線・なんば線)から東へ徒歩 5 分。阪神バス「小田南公園」(51 系統)から徒歩 2 分、「東大物町 1 丁目」(AD1~3・52 系統)から徒歩 6 分。

3. 脱炭素への取り組み

「ゼロカーボンベースボールパーク」の「ゼロカーボン」は「2023 年度までに再開発地域一帯の電力消費による二酸化炭素量を実質ゼロにする」という目標に由来しており、2022 年には環境省によって第 1 回脱炭素先行地域のひとつに指定されました。具体的な取

り組みとしては、大規模な屋上および背面太陽光発電と蓄電池を導入して必要な電力の8割以上を賄っているほか、SGL(改良型ガルバリウム鋼板)など断熱性に優れた建材の採用、廃棄物発電などコジェネレーションシステムの活用、バイオマス素材やリサイクル素材の製品の使用、施設内でのゴミの分別、雨水や井戸水の活用などが挙げられます。

2. 訪問記・観戦記

取材日: 2025 年 3 月 18 日(火)

2-1. アクセス～ 球場到着

おはようございます。今は朝9時。昨日は夜遅くまで別の記事を書いていたので、寝坊しちゃいました。もしこれを鳴尾浜球場へ行くつもりの日にやってしまうと、ほぼ確実に入場整理券が取れないので致命的ですが、球場が新しくなってからは事前予約が必要なので、全く心配ありません。特に比較的遠方(大阪府南部)に住んでいる私にとっては非常に嬉しいです。これだけでファームの試合に2000円近くもチケット代払う価値あります、ほんとに。

西九条からは阪神電車で大物へ。鳴尾浜のときは甲子園駅からバスだったので、私のような大阪の人にとってはめっちゃ近くなりました。ありがたや。電車内からはスタジアムや練習している選手の姿も見ることができ、球場に着く前からテンションが高まります。新球場に行ったことのない人にも行ってみたいと思わせることができるうまい仕掛けだと思います。



←阪神なんば線の車窓から。球場を一望でき、まさに可動式外野スタンド。写真は帰路に撮影。

大物駅からは駅出口直結の歩道橋と横断歩道を使って行けます。誘導の警備員さんが複数人立っているのでわかりやすいです。それに、球場建設に合わせて駅およびアクセス経路をきれいにしており、ゼロカーボンベースボールパークの雰囲気と統一感があるのも好印象でした。



←抜けるような青空と白い雲、そして青々とした芝生。色使いがめっちゃ好きです。

2-2.一旦入場～球場内散策

今はまだ11時過ぎ。試合開始の13時までまだたっぷり時間がありますが、とりあえず一旦入場してみます。入場には手荷物検査が必要で、鳴尾浜のときよりは多少管理が厳しくなった印象です。あと、新球場開業シリーズとして、エコバッグの配布がありました。



←エコバッグ。いいい。

私の座席は内野指定席(1塁側)の4段128番でした。ちょうど3番入場通路の近くの切り欠きになっているところで、座席間の通路に出るのにあまり苦労しなくて良かったのと、右隣が壁で人がいなかったのが、当たり席の部類でした。見え方は、甲子園のアイビーシートの一塁より少し本塁寄りの前方～中央列(年間指定席の14区画の13区画寄りみたいな感じ)に似ており、かなり見やすかったです。また、この球場は甲子園と違ってグラウンドに近いほど客席の傾斜が少しくつくなるため、前の人の頭で見えにくいといったことはなかったです。それに、椅子の座り心地や横幅、足元のスペースも改善されており、快適でした。



↑自分の席のだいたいの位置と本塁方向への眺望

自分の座席に荷物を置き、客席両翼およびネット裏からの眺望を確認します。この球場の客席は左右非対称で配置されており、1塁側(ホームチーム側)の内野席を多く取った構造になっています。そのため、1塁側の内野席の最果ては甲子園のアルプススタンドの手前ぐらいの位置までであるのに対し、3塁側の内野席は甲子園のブリーズシートの半分ぐらいしかないです。そのため、直前でもできるだけいい席がほしい！という人は3塁側の空席状況も見てみることをおすすめします。今日も1塁側ほど埋まってなかった気がします。

球場内には食べ物を売る店が複数あり、弁当やカレー、揚げ物、ビールなどが売られていました。特に弁当は私が着いた頃にはもうほとんどの種類が売り切れていて、平田監督と梅野選手のやつしか残ってなかったです。まだ11時やぞ、お前らどんだけ腹空かしとるねん。また、ゴミ箱も多数設置されており、分別とリサイクル資源(ペットボトル・プラスチックカップ)の回収が推進されていました。使用済プラスチックカップは球場の座席に生まれ変わるような、意外。



← ゴミ箱撮ったら警備員の人にめっちゃ不審な目で見られました。アストロズみたいに叩いてるわけちゃうんやから許してや〜

2-3. 途中出場～球場外周散策

ひととおり球場内を散策し終わったので、外周に出ます。このとき、スタッフの人が手首に青い紙バンドを巻いてくださいます。新球場では、途中出場と再入場は7回終了時まで可能で、再入場にはチケットと紙バンドによる認証、および手荷物検査が必要です。



←紙バンドはこんな感じ。取るのがめんどくさいタイプ。

まずは、内野席入場ゲート近くのスタジアム1階にある公式のグッズショップである「Tigers Shop next」に寄ってタイガース 90 周年ロゴ入りのカンフーバット(750 円)を購入。主力選手や新人選手のレプリカユニフォームや SGL スタジアム限定グッズもあり、品揃えは充実していました。ただ、外野自由席が開放される日はそれなりに混み合うことが予想されるでしょう。



↑グッズショップと購入したカンフーバット。文化祭展示に実物あるかも。

ここから反時計回りに外周を歩いていきます。まず、内野席入口近くには多目的広場が

あります。取材時は芝生養生中でしたが、この記事が出る頃にはきれいな芝生広場になり、近隣住民の憩いの場や待ち合わせ場所となっていると思います。

そして、少し歩いた先には、阪神なんば線の高架の向かいにある、選手寮兼クラブハウス、「虎風荘」及び室内練習場と SGL スタジアムを結ぶ、選手の動線(歩道橋と通路)があり、低めのフェンスこそあれど、間近で徒歩移動中の選手たちが見られます。それに、サインを書いてくださる選手も少なからずいるため、いつもそれなりに人だかりがあります。鳴尾浜のときのように選手が普通に公道を歩いているということはなくなったものの、選手をすぐ近くで見られるような環境を残してくださったのは一ファンとして感謝しかないです。



↑特に試合終了後は出待ちの人とサインを求める人でごった返します。右はサインを書く漆原投手。少なくとも 20 分ぐらいは書いてくださっていました。

中堅方向には内野練習場があります。サイズ感はキャンプ地にあるサブグラウンドみたいな感じで、土は甲子園のものと同じで、主に内野の守備練習や投内連携が行われています。私が取材したときには練習は行われていませんでしたが、こちらも低めのフェンスこそあるものの、公園の遊歩道やベンチから練習を間近で見学することができます。選手も緊張感を保ちながら練習でき、私たちファンも選手の息づかいを感じながら見学できるので、選手もファンも嬉しい施設ですね。ちなみに、近くの遊歩道に新マスコットのコラッキーの描かれたマンホールがあるので見つけてみてください。



↑阪神なんば線の電車と絡めて。もちろん車窓からも見えます。

そして、3 塁側場外には臨時の外野席入口と軟式野球場があります。取材日は平日で、まだ内野席を売り残していたのもあり、臨時外野席の発売はありませんでした。公営の軟式野球場も整備が行き届いており、きれいでした。

2-4. 再入場以降・実際に試合を見た感想（試合内容以外）

時間は 12 時半。そろそろ自分の席に着くとしましょう。再入場時の荷物検査は全てのポケットを開けさせられて、わりと厳しめでした。試合前にはコラッキーとチアによる演出があり、少し意外でした。また、試合中には大型 LED 画面を生かした選手登場演出や登場曲の放送のほか、ラッキー7 の演出(ビジターもあります)があったり、5 回裏には岡崎体育さん作曲のオリジナル曲のコラッキーとチアによるダンス披露があったりと、比較的甲子園で試合を見ている感覚に近かったです。



↑コラッキーかわいい。取材日に 3 安打の井坪選手。彼と中川選手は将来絶対活躍します。

また、春休みだからか、平日にしては子供連れや若者が多かったです。正直、鳴尾浜の

球場だと、土日でも定年過ぎた暇そうなおっちゃんと特定の選手の追っかけ本気の女の人たちが大半で、子供や若者が来るような場所ではありませんでしたが、新球場では、交通の利便性とチケットの手に入れやすさを高めたことで、客層が大幅に広がり、より多くのファンにとってファームの試合が身近なものになったと思います。実際に取材日のような平日でも約7割(約2500人・鳴尾浜球場の定員の約5倍)が埋まっており、鳴尾浜球場だけでは拾いきれなかった、かなりの潜在的な需要があったことが数字にも表れています。それに、酒の勢いに任せて汚い野次を飛ばすような人もゴミを散らかして帰る人もいなかったのも、観戦環境は明らかに甲子園よりも良かったです。とても満足度の高い野球観戦でした。

2-5. 試合内容

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	H	E
SB	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	6	2
神	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1×	4	9	2

SB： 村田-又吉-木村大-岩崎(敗)

阪神： 早川-木下-湯浅-島本-漆原-岩貞(勝)

ソフトバンクの先発は村田。阪神の先発は早川。

阪神の先発、早川は立ち上がりが不安定で、盗塁死がありながらも2四球などで1点を与えてしまう。その裏、阪神は1番井坪がこの試合唯一の長打でチャンスを作り、3番渡邊のタイムリーで同点に追いつく。

2回表、二死から今宮にうまくセンターに運ばれ勝ち越しを許すが、その裏、一死から戸井、百崎、井坪の3連打でまたも同点に追いつき、楠本、渡邊の連続四球で勝ち越しに成功する。その後は両先発ともゼロを並べた。

6回は木下が登板。先頭打者には制球を乱す場面こそあったが、一死から二者連続三球三振で三者凡退と支配的な投球。

7回は湯浅。しかし制球が定まらず、先頭から2者連続四球を出してしまう。その後は幾分持ち直したものの、味方の失策もあり同点に追いつかれる。それでも最小失点で切り抜け、逆転は許さなかった。

8回は島本、9回は漆原。どちらも1軍経験者とだけあって安定感のある投球内容。打線は又吉と木村大成を打ちあぐね、延長戦へ。

今季からファーム公式戦の延長戦にはタイブレークが導入。無死二塁からスタートで、前イニングの最終打者が二塁走者となる。10回は岩貞が登板。先頭を捕邪飛に料理し進塁を防ぐと、その後は一ゴロと右飛に打ち取って二塁走者を返さなかった。

10回裏、ソフトバンクは岩崎が登板。阪神は二塁走者に快足の福島を送り込む。井坪が初球できっちりと犠打を決め、一死三塁に。しかし、楠本が浅い左飛に倒れ、後がなくなってしまう。カウントを悪くしたため渡邊が敬遠され、井上が平凡な三ゴロを放って万事休す…と思いきや、三塁手のイヒネが悪送球。三塁走者の福島がホームに返り、サヨナラ勝ちとなった。イヒネは悔しい1試合2失策。

3. まとめ

新しい阪神の2軍本拠地は、鳴尾浜球場時代にあった選手との距離の近さという強みに磨きをかけながら、弱点であった設備の古さやアクセスの悪さ、キャパシティーの貧弱さを克服した非常にすばらしい施設です。それに、公園と一体となって開発されていることから、地域住民の憩いの場や災害時の拠点としての機能も持っており、地域にとっても欠かせません。加えて、脱炭素や省エネ、循環型社会など、環境にやさしい社会の実現に大きく貢献しています。これからも多くの阪神ファン、そして野球ファンにとって魅力的な施設であり続けるでしょう。

あとがき

阪神新2軍本拠地訪問記、いかがでしたか？実は、SGL スタジアムのネタが被っていないのを知って、本格的にこの記事の構想を練り始めたのが取材前日の昼過ぎ、取材したのが出稿2日前、執筆したのが出稿前日、推敲したのが出稿当日というものすごいスケジュールで書くはめになってしまい、自分でもちょっとびっくりしております。取材するとなると、普通に訪れるよりも細かいところに目がいくようになり、観察力や気づく力が鋭くなるので、より一層日常生活や有望株の追っかけが楽しくなりそうです。有望株といえば、阪神には将来が期待される若手選手がたくさんいます。彼らが大物(だいもつ)の地から阪神だけでなく次世代の日本の野球、いや世界の野球を背負って立つような大物(おおもの)が生まれることを願って、この記事の結びとさせていただきます。最後までお読みくださり、ありがとうございました。